

ほほえみ



3・4年

もくじ

第一部

- ① みんなのえがお 1
- ② たけしさんのスピーチ 2
- ③ 自分を大切に 友だちも大切に 4
- ④ つながる心「ありがとう」 6
- ⑤ 一まいのかん板ばん 8
- ⑥ インターネットの世界せかい 10
- ⑦ さくら先生のひみつ 12
- ⑧ お別れ会わか 14
- ⑨ ぼくの名前 16

第二部

- ⑩ あなたはどう思う? 18
- ⑪ わくわくボード 20
- ⑫ わたしたちのリレー 22
- ⑬ 地いきの人といっしょに 24
- ⑭ 自ぜんを守り隊たい 26
- ⑮ 発見! 世界の文化か 28
- ⑯ やさしいまち 30
- ⑰ みんなちがってみんないい 32



みんなのえがお



たけしさんのスピーチ

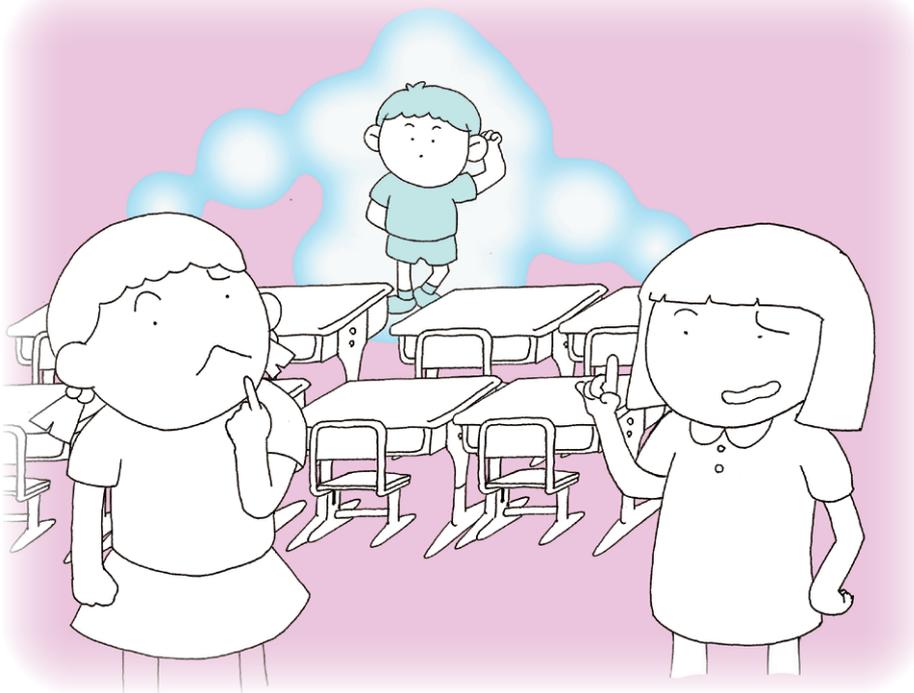
終わりの会の時に、先生が、

「朝の会のスピーチの時間に、はんの友だちのよいところを発表はっぴょうしていこう。来週からじゅん番にスピーチをしていくので、それまでに友だちのよいところをいっぱい見つけておこう。」

と言われました。わたしは、同じはんのまさおさん、かおりさん、あきらさんのよいところは、すぐに思いうかびました。しかし、どうしてもたけしさんのことは、思いつきませんでした。

次の日、「たけしさんのよいところはどんなところかな。」と考えて、教室の中でたけしさんのことを見ていましたが、やはり見つけられません。休み時間にかおりさんにたずねてみましたが、かおりさんもわたしと同じように、まだ見つけることができていませんでした。二人でいっしょに考えても、たけしさんは、おとなしいし、発表の声も小さいし、休み時間も一人でいることが多いみたいだし、そんなことしか思いつきませんでした。でも、そんなことは発表できないので、

「何か一つぐらいできとうにスピーチしたらいいよね。」
ということになりました。



いよいよスピーチが始まりました。わたしたちのはんから始めることになり、じゅん番はじゃんけんで決めて、今日はたけしさんが朝の会で発表することになりました。わたしは、たけしさんがどんなことを言うのかなと、少しだけ思いました。たけしさんはいつものように小さな声で話し始めました。

かおりさんは、だれかがかたづけわすれたきゅう食の食きを、だまってきゅう食室に運んでいました。

あきらさんは、そうじの時間にほっきのはき方がとってもじょうずです。

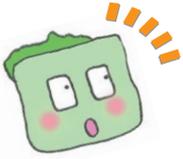
まさおさんの大きなわらい声を聞くと、ぼくも楽しくなります。

よしみさんは、はんの話し合いの時、とてもたよりになるはん長です。

スピーチを聞いて、わたしは「たけしさん、すごい。」と心の中でつぶやきました。たけしさんは、わたしが気がつかなかったことを見つけました。そして、何だか悪いことをしたような思いがしてきました。

家に帰ってから、たけしさんの小さな声でスピーチしているすがたが、頭の中にうかんできました。明日の朝の会は、わたしの番です。もう一度たけしさんのスピーチを思い出しました。たけしさんのよいところが、見つけれられたような気がしてきました。





いろいろな場面でのつたえ方を考えよう

①



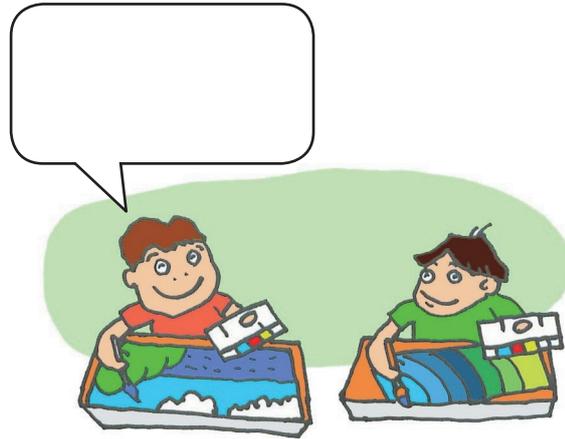
休み時間にブランコをしています。

じゅんばんを待っているのに、かなこさんはぜんぜん代わってくれません。

②



たかしさんは図工の時間、絵の具で色をぬっていました。足もとをよく見ていなかったなので、なおきさんの水入れをひっくり返してしまいました。



③



一列にならんで先生にノートを見せています。

そこへ、よしおさんがすっとわりこんできました。

自分を大切に 友だちも大切に

自分の気持ちや考えを相手につたえることは大切なことです。

さらに、相手の気持ちを考えてつたえると、自分も相手も気持ちがよいですね。



どなたつたえ方がよいか考えよう

朝の読書タイムで本を読んでいます。

友だちから「その本をかして」と言われましたが、まだ読んでいるとちゅうなので、かしたくありません。

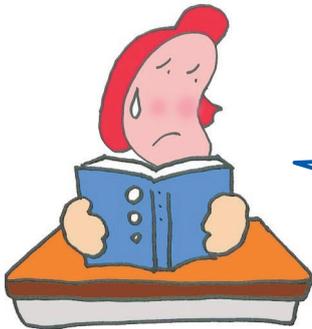
【たのむ人】

その本おもしろそうだね。
かしてくれない？



【ことわる人】

なみさん



う、うん。
あのね・・・ ちょっと・・・。

あきおさん



むり！
読んでるんだから、じゃましないで！

さやかさん



うん、この本おもしろいよ。
でも、ごめんね。読んでいるとちゅうなんだ。
かすのは読み終わってからもいい？

つながる心 「ありがとう」

ありがとう

文房具ぼうぐありがとう

えんぴつ、分度どき、コンパス大切にします。

花のなえありがとう

お母さんとはちに植うえました。

花が咲さくのがたのしみです。

うちわありがとう

あつい時うちわであおいでいます。

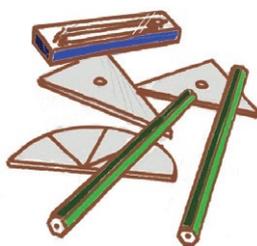
くつをありがとう

サッカーの時とってもけりやすく

いっしょうけんめい走っています。

クッキーありがとう

家でおいしく食べました。



さんこう書ありがとう

勉強べんこれからがんばります。

図書カードありがとう

本をたくさん買いました。

やきそば作ってくれてありがとう

おいしくいっぱい食べました。

教室にせん風機ふうきありがとう

これで勉強はかどります。

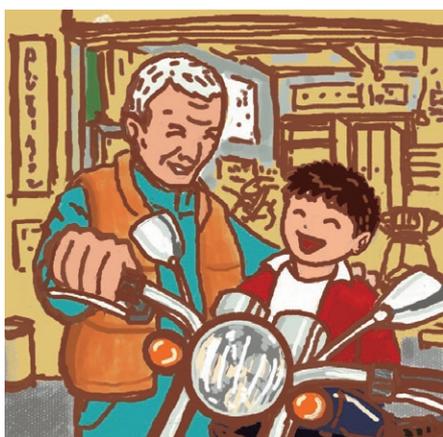
応おえんの言葉ことばありがとう

心が元気になりました。

最後さいに

おじいちゃん見つけてくれてありがとう

さよならすることができました。





おじいちゃんの工場があった鹿折地区

おじいちゃんは、おさない心をほ育所までむかえに行ったり、海水浴や温泉につれて行ったりしてくれました。心にとっては、スキーやキャンプが得意なスーパーおじいちゃんでした。そんなおじいちゃんも、そのの病気で入院したことがあります。心は、おじいちゃんのリハビリのため、しよぎを持って、毎日のように病院へ通っていました。

平成二十三年三月十一日午後二時四十分、東日本大しんさいが発生しました。地しんの後、大きなつ波と火さいが、宮城県気仙沼市をおそいました。

「ありがとう」の詩は、気仙沼市立面瀬小学校に通っていた当時四年生の菊田心さんが書いたものです。

心さんのお母さんにお話を聞きました。

心とおじいちゃん



つ波をぼうぜんと見つめる気仙沼の人々



つ波の後の救えん活動

地しんの後、はなればなれだった家族が顔を合わせた時、そこにはおじいちゃんのすがただけがありました。おじいちゃんの工場は、つ波のあとの火さいがひどかった鹿折地区にありました。心は、元気なおじいちゃんのことだから、いつか歩いてでも帰ってくるかと信じて待ちましたが、何日たってもおじいちゃんはおどってきませんでした。心は、すっかり元気をなくしてしまいました。

学校のじゆ業がさい開されると、全国からのしえん物しやはげましのメッセージが毎日のようにとどくようになりました。心も少しずつ元気になり、心配していたわたしたち家族もほっとしていたのです。

地しんから二カ月ほどたったある日、ようやくおじいちゃんが見つかったという知らせが入りました。見つけてくださったのは、遠く九州の大分県からしえんにやってきた自えん隊の方だったそうです。

なみだがいっぱい出ましたが、心は、大好きだったおじいちゃんときちんとお別れすることができました。

「まいのかん板」

小学校のげん関前げんかんに立てかけられた一まいのかん板。そこに書かれた言葉には、町のみんなの思いが表れていました。今、思い出しても、なみだがあふれてきます。

〈平成二十二年八月九日〉

(朝からふりつづいている雨、早くやまないかな)

あの日、わたしは、そう思いながら朝からすごしていました。

『ヒューン、ヒューン』

午後八時前ごろ、川をかんししている地区のサイレンが鳴りひびきました。父は、近くに住む一人ぐらしのお年よりを心配して、土しやぶりの雨の中、外へとび出して行きました。残された家族は、みんなでおばあちゃんを安全な二階へつれて上がりました。そのあと、大事なものを持って上がり、ゆかに置いてある物もすべてテーブルの上にあげました。そのときです。げん関から入ってきた真っ黒な水がみるみる上がってきたのです。わたしは、生まれてはじめて(命があぶない)と感じました。そして、家族と大急ぎで二階へか



けあがりました。

「バチッ！」

家の中の電気が消え、あたりが真っ暗になりました。停電です。わたしは、不安な気持ちで、二階のまどからこわごわ外を照らすと、遠くの家からもこちらを照らす明かりが見えました。

すごい音がするので、そちらへ明かりを向けました。家の前の道路をせんとく機や流し台がゴロゴロと流れていくのが見えました。車や物置もぶつかりながら流れていきます。わたしは、急に足がすくんで、がたがたとふるえてきました。

そのばん、わたしは、ほとんどねむれませんでした。

〈変わり果てたまち〉

よく日、わたしは、自分の目をうたがいました。げん関からは、三十センチ以上の高さまで、どろが流れこんでいたのです。

家の前の電柱は、一本が折れ、もう一本はたおれていました。ガードレールはねじ曲がり、橋のらんかんには流されてきたいろいろな物が引っかかっていました。



すっかり変わり果ててしまった町のすがたに、わたしはまるでゆめを見ているようでした。

そのときです。きのう、雨の中をとび出して行った父が、もどってきたのです。わたしは、心の底からほっとしました。

でも、その日からが大変でした。来る日も来る日も、「どろ出し」「仕分け」「どろあらい」など、家族みんなであとかたづけをしました。た。

〈ボランティアがやって来た〉

そんなわたしたちにとって、心強い人たちがいました。

「町がこんなになっているのに、試合どころじゃない。」

高校の野球部のお兄さんたちは、水害直後からやって来て、重いたみを次々に運び出してくれました。

近所で手伝ってくださる人たちの中には、遠く四国からとまりがけでやってきたというお姉さんもいました。

「家でニュースを見ていると、じっとしていられなかった。」

というお姉さんの言葉に、わたしは、思わずなみだがこらえきれなくなり泣きました。

「阪神・淡路大しんさいでお世話になったおん返しや。」

というおじさんは、仕事を休んで神戸からやってきたそうです。

「みんないっしょや、おたがいさまや！」

おじさんの声に、笑い声がおこりました。

どの人の顔もみんな、あせだらけ、どろだらけでした。

こうして、たくさんの方々のおかげで町は少しずつかたづいて、元の元気なすがたをとりもどしていったのです。

〈自分にできること〉

あのおきのおそろしさは、今でもわすれることはできません。ただ、わたしの心の中には、この水害で変わったこともあります。それは、自分の町が前よりも好きになったことです。この町には、助け合える人がたくさんいるからです。

わたしも大きくなったら、人の役に立てる人になりたいです。そして、もし、どこかでこまっている人がいたら、今度はとんで行って手をさしのべられる人になりたいと思います。

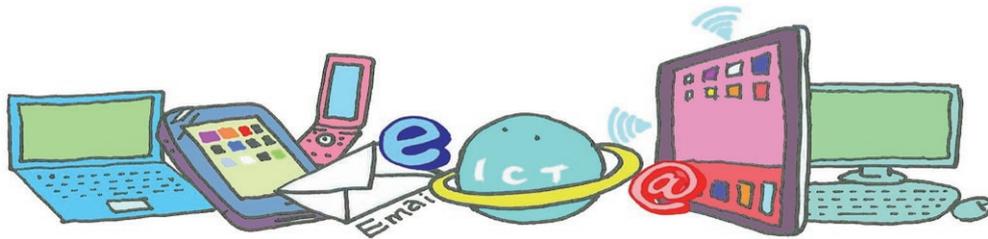
でも、そんなわたしに父が言いました。

「大きくならんでも、できることがあるんとちゃうか。」

(できること・・・今のわたしに・・・)

心の中で、わたしは、父の言葉を何度もくり返しました。





でも、こんなこわいところもある世界・・・



まちがったじょうほうやきけんなじょうほうもある。



名前や住所、写真などの大事なじょうほう^{じゅうしょ しゃしん}が他人に知られて、悪いこと^{わる}に使われることがある。



年れいやせい別^{べつ}をかえて、だまそうとしている人もいる。



インターネット上にのせたじょうほうは、すぐ世界中に広がる。まちがっていてもすべてを消^けすことはできない。



かるい気持ち^もで書いたことが、人をきずつけたり、こまらせたりすることがある。



気づかない間に、たくさんのお金や時間を使ってしまうことがある。



インターネットの世界

せかい

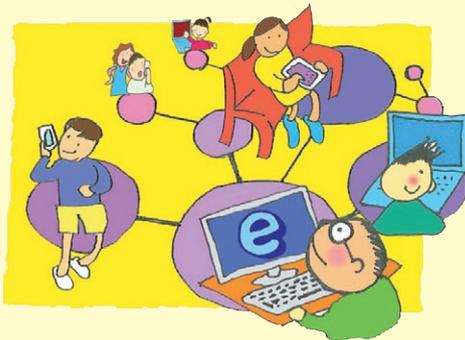
楽しく、べんりな世界…



たくさんのじょうほうが、かんたんに
手に入る。



しらべ学習ができる。



世界中のたくさんの人と交流ができる。



家で買い物ができる。



目や耳の不自由な方にもじょうほうのやりとりにべんりである。



ゲームや音楽、えいぞうを楽しむことができる。



さくら先生のひみつ

山野さんは、国語の時間にインタビューについて学習しゅうしました。その人の人がらや考え方を聞きとることがめあてでした。

さっそく、たんにんのさくら先生にインタビューすることにしました。さくら先生は、お昼休みには、いつもクラスの子とも遊ぶあそ元気な先生だからです。

「さくら先生、先生は子どものころ、どんなゆめをもっておられましたか。」
としつ問もんすると、さくら先生は、

「先生になるのがゆめでした。」
と答えました。

「なぜ先生になろうと思われたのですか。」
と、さらにくわしくしつ問もんしました。

さくら先生は、あらたまつたようにせなかをのばして、少しはずかしそうに話し始はじめました。

わたしは、小学校三年生のときに、阪神はんしん・淡路大あわじだいしんさいにあいました。家の中はぐちゃぐちゃになり、テレビも落おちてこわれました。水もガスも電気も使つかえなくなりました。外に出るとたくさんの方がつづれ、とてもこわいと思いました。学校に行けなかった二週間、不安ふあんでたまりませんでした。友だちとしゃべりたい、早く学校へ行きたいと思いました。学校が始まったとき、とてもなつかしいと思いました。

「元気やった？」

「こわかったね。」



と顔を見るなり、みんなだきあって口々に言いました。

運動場には、自えい隊たいの車やひなんしてきた人の車、かせつトイレ、たき出しの道具ぐなどが
おいてありました。わたしは、遊ぶ気分にもなれず、教室やふじだなの下でじっとすわって
いました。

しかし、たんにんの大川先生は、昼休みになると、いつも大きな声で、

「みんな、遊ぶぞー！」

とよびかけて、クラスのみんなを外へ連れ出して遊んでいました。

そして、

「さくらさんも、いっしょに遊ぶぞ。」

と、わたしにも声をかけてくださるのでした。大川先生の目は「だいじょうぶだから。」と語っ
ているようでした。

みんなと遊んでいると、不安だった気持ちがうすらぎ、すぐに時間が過ぎてしまいました。

これまで当たり前のようにすごした休み時間が、こんなに楽しい時間とは思いませんでした。

また、先生や友だちといっしょにいるから、元気が出るということに気づきました。

このとき、わたしは大川先生みたいに、子どもの気持ちを安心させる先生になりたいと思っ
たのです。勉強べんがつかいときは、このときの気持ちを思い出してがんばりました。

さくら先生へのインタビューを終え、山野さんはさくら先生のあたたかさのひみつがわかっ
たような気持ちになって、早くみんなに伝えたいと思いました。



お別れ会^{わか}

「ふじ田先生のに顔絵を色紙^{しきし}にかきたい人はいますか。」

ぼくたちのクラスで教育実習生のふじ田先生のお別れ会をすることになった。学級会で話し合い、お礼の色紙とお礼の紙でつくった花たばをわたすことになった。

いよいよ、たん当者を決めていくことになった。

色紙には、みんなのメッセージを書き、その真ん中に絵をかくのだから、せきにん重大だ。ぼくは、絵をかくのは上手な子^{じょうず}にまかせたらいいと思っていた。みんなも同じように思っているのか、だまったままだった。

とつぜん、ひろしさんが

「やってみよう。」

とみんなの前で言った。みんな、思わずひろしさんの方を見た。

(ひろしさん、だいじょうぶかな。あまり絵をかくのは得意^{とく}じゃないけど……。)

と、ぼくは思った。

クラスはざわざわしはじめた。

「ひろしさんで、だいじょうぶかな。」

「ふじ田先生、よろこんでくれるかな。」



そんな声がぼくの周りから聞こえてきた。

ただしさんが

「さい近、ひろしさん、図工の時間もがんばっているよ。」

みきさんも、

「ひろしさん、休み時間にふじ田先生の顔をかいているよ。」

と言った。ぼくは、ひろしさんをおうえんしたかったけど、そのことが言えなかった。

二人が言ってもクラスの中は、ざわざわしたまま。

その時だ。「かずおさんが手をあげてる！」

ぼくはびっくりして、かずおさんの方を見た。

みんなの前で発表するのが苦手なかずおさんが手をあげていたのだ。

「ひろしさんをおうえんするよ。ひろしさん、休み時間にふじ田先生とよく遊んでいたし、絵を

かくのをずっとがんばっているよ。」

とかずおさんが言った。その意見を聞き、ぼくは、思わずみんなの前で

「みんなでひろしさんをおうえんしよう。」

と言っていたのだ。その後、さんせいしてくれる友だちがふえていき、絵のたん当はひろしさんに決まった。

ぼくは、うれしくなり、お別れ会のためにがんばろうと思った。



ぼくの名前

ぼくには、二つの名前があります。一つは、生まれた時に両親が付けてくれたベトナムのフィという名前、もう一つは、小学校に入る前に付けてくれた日本の秀樹ひできという名前です。ぼくは、どちらも気に入っています。

生まれて間もなく日本にやって来たぼくは、ほ育所に入りました。ほ育所ではみんなが、ぼくのことをフィとよんでいたの、ぼくの心や体の中には、フィという名前がしみこんでいました。

小学校に入学する前に、ベトナム人が一人かもしれないと両親が心配して、日本の名前をつけました。

ぼくは、小さかったから、なぜ二つの名前ができたのか考えてもみませんでした。ずっと日本の名前ではばれていると、だんだんその気になっていきました。でも、

「どうして名前が変わったの。」

と友だちに聞かれた言葉が、心にひっかかっていました。



入学してからも、両親が心配するような一人ぼっちになることはありませんでした。

二年生からは、ベトナムのお祝いの時にひろうされるムーラン（ベトナムのししまい）のしっぽに入りました。ムーランは、ベトナム人のじまんです。そのムーランに入ることは、ベトナム人の喜びでした。そんなぼくのすがたを見て、お母さんは、なみだぐんでいました。

家に帰ってからお母さんが、

「フィ、今日は、ベトナム人としてどうとムーランをおどるあなたをじまんに思ったよ。フィというのは、ベトナム語で明るいという意味なんだよ。わたしたち家族はふるさとはなれなければならなかったけれど、あなたにそんな家族をてらす希望の光になってほしいという願いをこめてつけたんだよ。」

と言ったので、ぼくはむねが熱くなりました。

三年生になってからぼくは、両親が心をこめてつけてくれたベトナムの名前にもどすことに決めました。

この名前にもどってからは、ぼくの中のベトナム人としてのほこりがわきあがってきました。

ぼくは、フィという名前を大切に生きていきたいと思っています。



事例③ 電車の運転士や保育士の仕事をしている男の人、女の人。



事例④ 仕事を休んで子どもの世話をするお父さん、お母さん。



あなたの身の回りにある男女のちがいについて、学校や家でも話し合ってみましょう。

あなたはどう思う？

わたしたちの身のまわりには、さまざまな「ちがい」があります。

あなたはどう思いますか？

事例① ^{れい} 女の子はスカートをはき、男の子はズボンをはく。



事例② 女の子のトイレはこ室になっている。男の子のトイレはこ室になっていない。



わくわくボード

今、ぼくたちの教室の前には、わくわくボードがはってある。

そこに、一日の学習内ようを日番が書いている。それは、すすむさんのことをみんなで考えて決めたからだ。でも、四月ごろは、教室のふん囲気はちがっていた。

すすむさんは、とても本が好きで、ぼくたちの知らないことをたくさん知っている。そんなすすむさんだが、四月ごろ、自分の言いたいことが伝わらないと大きな声を出して泣き、友だちとけんかをしてしまうことが多くあった。

ある日の理科の時間のことだ。急に雨がふり始めた。

「雨がふっているの、外に出て、こん虫を観察するのは止めます。」

と先生が言われた。後ろの席のすすむさんがいらいらしているのが分かった。ぼくは、気になって「何でおこってるん。」

と聞いた。するとぼくにもおこり始めた。ぼくは、どうしたらいいか分からなくなってしまった。

昼休みになり、みかさんが声をかけていた。

「どうしたの。」

最初は、

「知らん。言いたくない。」

と言っていたすすむさんが少しずつ話し始めた。その話を聞いていると、

朝の会

①算数

②理科 夏の星座

③プール とび箱・マット

④道徳

⑤学級会 夏休みの計画

終わりの会

わくわくタイム

「理科の勉強でこん虫の観察をしようと思っていたのに急に予定が変わってしまったのが、がまんできなかつたし、そのことをみんなに言えなくて、おこってしまった。」

ということを言っていた。みかさんは、三年生の時から、こまっている時によく相談にのっていた。みかさんに聞くと、

「すすむさんは、す直に自分の気持ちを言うことが苦手で、おこってしまうけれど、しばらくしてからじっくり話を聞くと自分の気持ちを言える時があるよ。」

と言っていた。ぼくは、みかさんってすごいなと思った。そんなみかさんを見て思い切って先生に相談することにした。

次の日、学級会で話し合いをして、わくわくボードを作ることになった。

予定がへんこうになりそうな時は、朝の会でみんなに知らせることもなった。

「そうしよう。すすむさんだけじゃなく、ぼくたちにも役に立つよ。」

「本当、わたしも予定が分かると助かるわ。」

そんな声が聞こえてきた。

今、ぼくは、すすむさんがおこっていると、しばらくしてから話を聞くようにしている。そうすることで、仲よく遊べるようになってきた。みんなもすすむさんと笑顔で話せるようになってきた。わくわくボードをはったことで、みんなも次の予定が分かって、勉強のじゅんびが早くなり、落ち着いて勉強ができるようになってきた。

明日は、ぼくとすすむさんがわくわくボードに書く番になっている。



わたしたちのリレー



運動会が三日後にせまった予行の日、かずやさんが熱を出して学校を休んだ。四色対こうリレーでは、わたしがかずやさんのかわりにもう一回走るようになった。

けっかは一位。わたしたち白組は、初めて勝った。

「ばんざいー！」

チームは大さわぎになった。

白組は、それまでの練習ではいつもビリだった。初めのほうは一位を争っていても、かずやさんのところでみんなにぬかれてしまう。

かずやさんは、何をしてマイペースで、リレーのときもゆっくりと走る。ときには歩き出すこともあって、ほかのチームに大きな差をつけられてしまうのだ。

はじめてばんざいをするわたしたちに、青組のこうへいさんが言った。

「かずやさんがいなかったら、白組は強いなあ。」

それを聞いて、わたしははっとした。白組のみんなもだまってしまった。マイペースでぬかれていくかずやさんのすがたと、明るくておだやかなかずやさんの笑顔が、わたし

の頭の中にかわるがわるうかんできた。

放課後、バトンパスの練習をしたあとで、白組のみんなで話し合った。
みんなもすっきりしていなかった。

運動会の前日になって、かずやさんがやっと学校に来た。かずやさんは、いつものやさしい目をしながら、

「おはよう。」

と手をふった。わたしたちはかけよって、口々に声をかけた。

「おはよう、かずやさん。」

「やっと全員そろったね。」

こうへいさんも、かずやさんに話しかけた。

「あしたのリレー、がんばろうな。そうだ、昼休みにいっしょに練習しようよ。」

かずやさんは、にっこりわらった。わたしたちもわらった。

「じゃあ、青組と白組のみんなは、一時に運動場に集合。」

わたしの声が教室にひびいた。

いよいよ、あしたは運動会。最高のリレーにしたいな。



地いきの人といっしょに

今日は早起きをした。お父さんといっしょに地いきのクリーンデーに参加さんかするからだ。きのう、

「まさしも明日手伝つたえよ。」

とお父さんに言われて、軽い気持ちで引き受けた。でも、朝から太陽の日ざしがきびしいし、しかもねむたいし、引き受けたことをぼくはこうかいた。集会所の前には、もう何人が集まってきていた。お父さんやお母さんぐらいの人や、おじいさんやおばあさんのような人もいた。ほとんど知らない人ばかりで、ますます早起きして参加したことがいやになってきた。

お父さんは地いきの役員で、クリーンデーのたん当をしているということは知っていたが、ぼくは今まで参加したことはなかった。五、六人のグループに分かれて、みぞそうじをしたり、落ちているゴミを集めたり、草引きをしたりするそうだ。

ぼくはお父さんとみぞそうじをすることになった。お父さんといっしょで少しほったとした。同じグループのおじいさんが、

「小学生やのに、感心な子やなあ。」

と、ぼくのことをほめてくれた。それからおじいさんは作業をしながら、この町の昔のことを教えてくれた。今とちがってこのあたりは、田んぼや畑がいっぱいあったこ



と。牛をかつている家から、牛がにげ出し、たくさんのおとなの人が牛を追いかけてつかまえたこと。公園のはしにある大きなさくらの木は、おじいさんが子どものころに植えた木の一本であること。次々に出てくるおじいさんの話は、とても楽しかった。おじいさんはにこにこした顔で、

「この町にはいっぱい思い出がつまっているんや。」

と言っていた。初めて話をするおじいさんだけど、なんだか前から知っていた人のような感じがしてきた。

むこうのほうで、

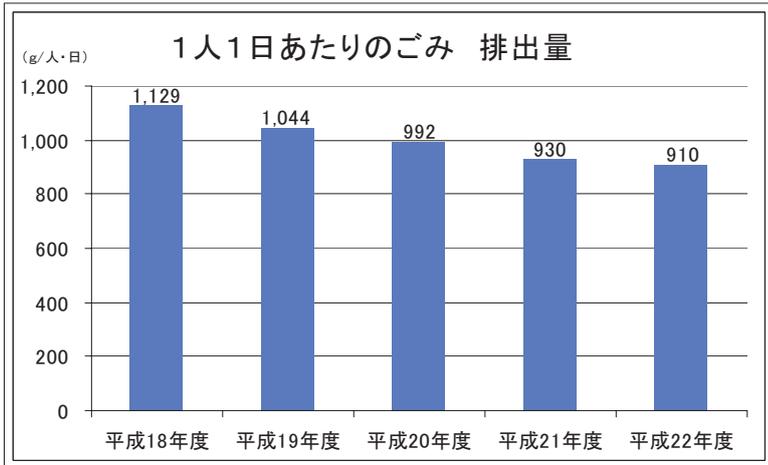
「だれか手伝って。」

という声があったので、ぼくはよんでいたおばさんの方にすぐに走っていった。おばさんは、みぞのふたを持ち上げて、中をそうじしようとしていたが、ふたが重くて持ち上がらなかったようだ。おばさんの顔には、大つぶのあせが流れていた。ぼくは、おばさんといっしょに、力をこめてふたを持ち上げて動かした。おばさんはとっても喜よろこんで、軍手ぐんをした手でぼくの手にあく手をしてきた。ぼくもぎゅつとにぎりかえた。

二時間ぐらいでクリーンデーは終わった。家に帰っておそい朝ごはんを食べた。そして宿題の日記に、朝のできごとを書くことにした。いっぱい書きたいことがある。



～わたしたちにできること～



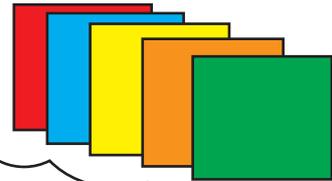
ひょうごけんかんきょうせいびか
(兵庫県環境整備課)

1人1日あたりのごみ

はいしゅつりょう
排出量 **910g**

(平成22年度)

「おり紙にすると、
700まい分になります。」



○ 自ぜんを大切にするには、どうしたらよいか話し合ひましょう。



マイバッグで
お買い物！



ぶんべつかいしゅう
分別回収ボックス



ひめじしりつやわた
姫路市立八幡小学校3年生によるクリーン作せん

○ 調べる時のさん考になるよ

- ・環境省「こどものページ」
- ・兵庫県立人と自然の博物館
- ・財団法人ひょうご環境創造協会

<http://www.env.go.jp/kids/>

<http://hitohaku.jp/>

<http://www.eco-hyogo.jp/support/kankyogakushu/>

自ぜんを^{まも}守り^{たい}隊

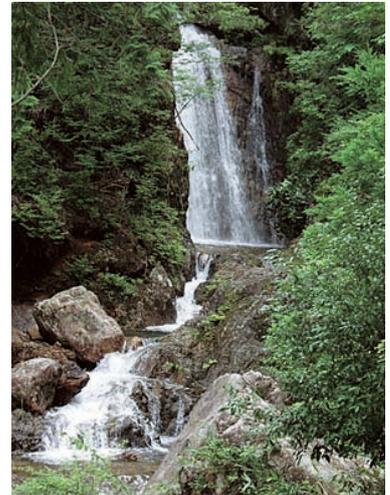
知っているかな？ ^{ひょうご}兵庫県には、ゆたかで、^{うつく}美しい自ぜんがたくさんあり、きちよ
うな生き物がたくさんくらしています。



① ^{とよおか}豊岡市 コウノトリ



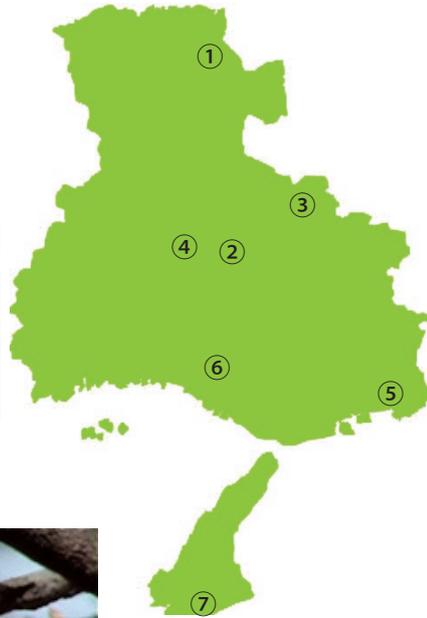
② ^{たか}多可町 ^{たなだ}棚田



③ ^{たんば}丹波市 ^{ひがおくけいこく}日ヶ奥溪谷



④ ^{かみかわ}神河町 ^{とのみねこうげん}砥峰高原



⑤ ^{にしのみや}西宮市 ^{しゆくがわ さくら}夙川の桜



⑥ ^{かこがわ}加古川市 ギフチョウ



⑦ ^{すいせんきょう}南あわじ市 水仙郷

みなさんの近くにも、草花、^{やちよう}野鳥、^{ちゆう}こん虫など、いろいろな生き物がくらしています。

○ ^{みぢか}身近な自ぜんを^{しら}調べてみましょう。

- 何を見つけたかな。どんなことを^{かん}感じたかな。
- 自ぜんや生き物を守っていくために、わたしたちにできることはないかな。

あそび
○ アジアの遊び



<足でける遊び>



ベトナム



韓国



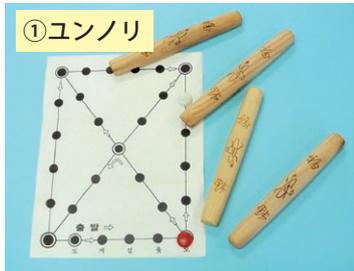
中国



タイ



<すごろく>



韓国



ベトナム



インド



りゅう
○ 交流会で友だちがたくさんできました



ベトナムのししまいムーラン



いろいろな国の子どもたちとっしょ



韓国のチャンゴ体けん



フィリピンのティンクリン



みんな族いしょうでポーズ!



みんなでチャンゴ

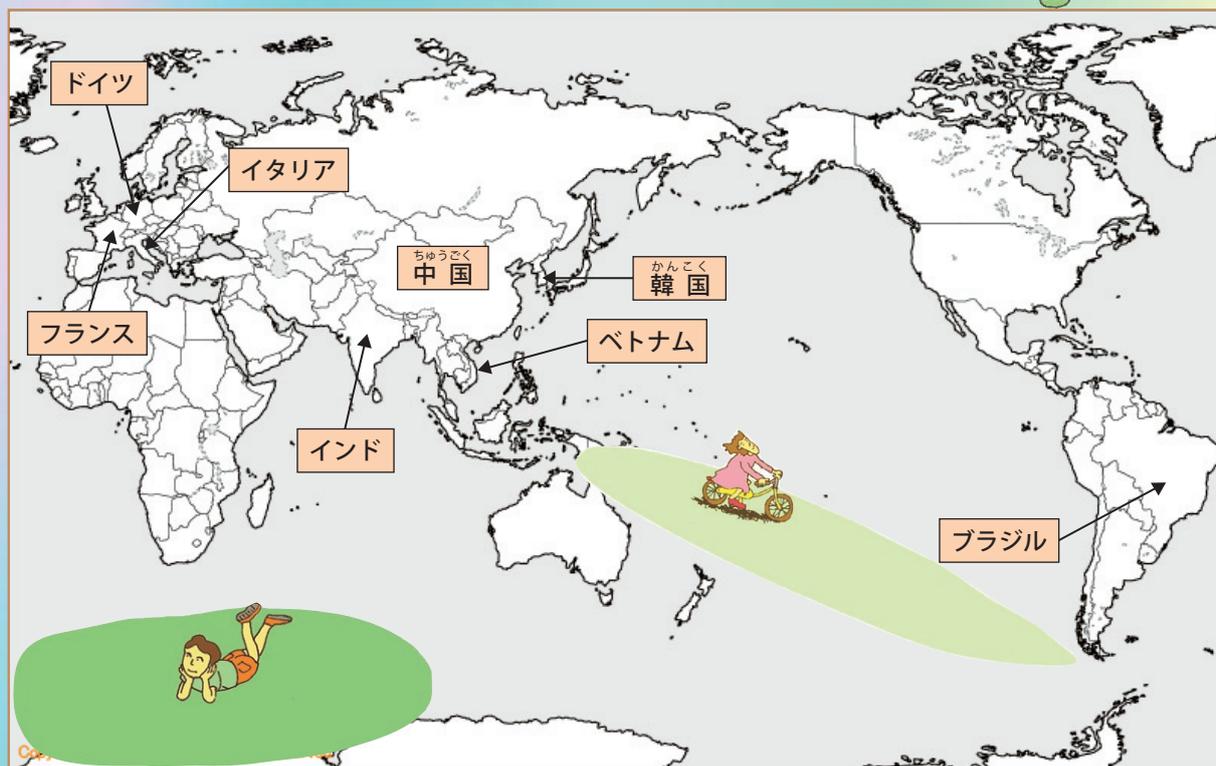
日本にはいろいろな国の人がからしています。

はっ せかい か 発見！世界の文化

世界かく地にはさまざまな文化があります。
どんな文化があるのでしょうか。



○世界のりょう理を調べよう



みんなが食べているきゅう食は、どこの国のりょう理でしょう。



① タンドリーチキン



② マーボー豆腐



③ フェジョアーダ



④ ジャーマンポテト



⑤ フォー



⑥ エスカベッシュ



⑦ ミネストローネ



⑧ チャプチェ



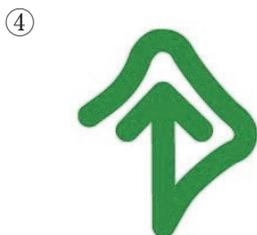
⑩ 「同じホームページですが、なぜは景の色がちがうのでしょうか?」「音声読み上げ」って何?

● こんな場面を見かけました。



● わたしたちの身のまわりにはいろいろなマークがあります。見つけてみましょう。

どんな意味があるのかな?



※市や町によって、マークがちがうことがあります。
自分の住むまちのマークをさがしてみましょう。

やさしいまち

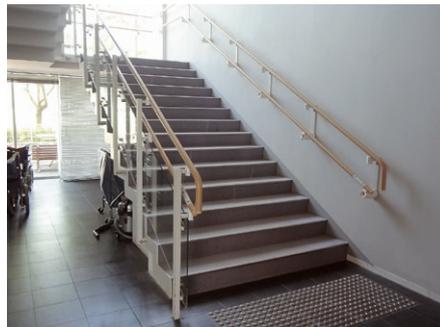
みのまわりには、みんなのことを考えた「やさしさ」がたくさんあります。
どこに、どんな「やさしさ」があるのか、見つけてみましょう。



①自動はん売機
「どこがちがうの？」



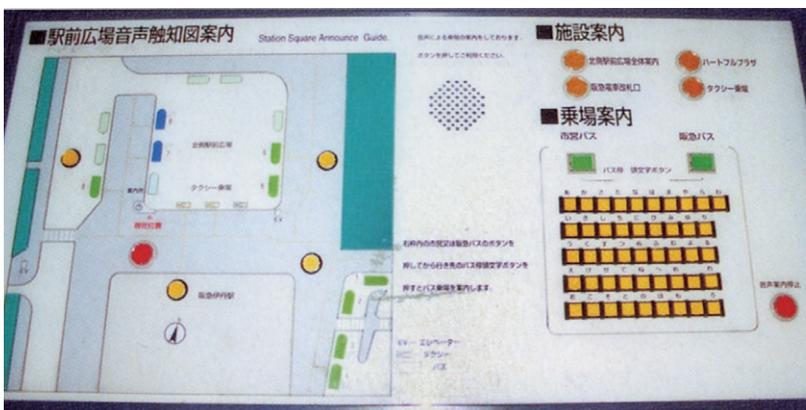
②緑色のランプ
「このランプは何のためにあるの？」



③手すり
「2だんになっているのはなぜ？」



④エレベーター
「どこがちがうの？」



⑤音声しょく知図案内
「これは何？」



⑥記さい台
「高さがちがうのはなぜ？」



⑦スロープ
「だれにやさしい？」



⑧トイレ
「だれにとって使いやすい？」



⑨多言語表示
「だれにやさしい？」

みんなちがって みんないい

①



②



③



④



⑤



⑥



あなたは、^{せかい}世界にただ一人のかけがえのないそんざいなのです。

小学校中学年用教育資料

『ほほえみ』

平成 25 (2013) 年 3 月発行

発行 兵庫県教育委員会
神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

ほほえみ 活用の手引き

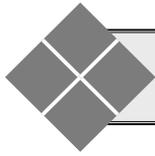


目 次

○ 小学校中学年用教育資料『ほほえみ』の改訂にあたって	1
○ 小学校中学年用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの編集について	2
○ 小学校中学年用教育資料『ほほえみ』の活用にあたって	4
○ 人権教育の内容構成	5
○ 小学校教育資料『ほほえみ』系統表	6

No.	資 料 名	分 類	領 域	学 年	ページ
①	みんなのえがお	1-(1)-ア	学びとの出会いの促進	特別活動	3 8
②	たけしさんのスピーチ	2-(2)-ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	3 9
③	自分を大切に 友だちも大切に	3-(2)-ア	人間関係の活性化	特別活動	3 10
④	つながる心「ありがとう」	2-(1)-ア	生命の尊厳についての学習	特別活動	3・4 13
⑤	一まいのかん板	2-(1)-ア	生命の尊厳についての学習	道 徳	3・4 14
⑥	インターネットの世界	2-(1)-イ	人権の歴史と思想についての学習	特別活動	3・4 16
⑦	さくら先生のひみつ	3-(1)-イ	個性・能力の伸長	道 徳	3・4 18
⑧	お別れ会	3-(1)-イ	個性・能力の伸長	特別活動	4 19
⑨	ぼくの名前	1-(2)-ア	自尊感情の形成	道 徳	4 20
⑩	あなたは どう思う？	2-(1)-イ	人権の歴史と思想についての学習	特別活動	4 21
⑪	わくわくボード	2-(2)-イ	人権の擁護とその活動についての学習	道 徳	4 23
⑫	わたしたちのリレー	3-(1)-イ	個性・能力の伸長	道 徳	4 24
⑬	地いきの人といっしょに	3-(2)-イ	社会参加の促進	道 徳	4 25
⑭	自ぜんを守り隊	3-(2)-イ	社会参加の促進	理 科	3 26
⑮	発見！世界の文化	3-(2)-ア	人間関係の活性化	総 合	3 28
⑯	やさしいまち	2-(1)-イ	人権の歴史と思想についての学習	総 合	3・4 30
⑰	みんなちがって みんないい	3-(2)-ア	人間関係の活性化	道 徳	3・4 32

No.	資 料 名	分 類	領 域	学 年	ページ
1	「こっちの方がいいよ」	1-(1)-ア	学びとの出会いの促進	特別活動	3 33
2	こんな「ちがいは	2-(1)-イ	人権の歴史と思想についての学習	特別活動	3 34
3	だいこんとにんじん	2-(2)-ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	3 35
4	まほうのかがみ	3-(1)-イ	個性・能力の伸長	特別活動	3 36
5	がんばれいのち	2-(1)-ア	生命の尊厳についての学習	総 合	3 38
6	で・き・た	3-(2)-ア	人間関係の活性化	道 徳	3 39
7	やくそくげんまん	3-(1)-ア	「市民意識」の醸成	特別活動	3 40
8	土のふえ	3-(2)-ア	人間関係の活性化	国 語	3 41
9	ありがとう	3-(1)-ア	「市民意識」の醸成	道 徳	3 42
10	町のたから	3-(2)-イ	社会参加の促進	道 徳	3・4 43
11	島ひきおに	2-(2)-ア	差別と人権問題についての学習	国 語	3・4 44
12	半分のおにぎり	3-(2)-イ	社会参加の促進	道 徳	3・4 45
13	こんばんは	3-(2)-ア	人間関係の活性化	特別活動	3・4 46
14	だいじょうぶ	3-(1)-イ	個性・能力の伸長	道 徳	4 47
15	おい、わたしの口	3-(1)-ア	「市民意識」の醸成	道 徳	4 48
16	うしろの正面、だ～あれ	2-(2)-イ	人権の擁護とその活動についての学習	特別活動	4 49
17	ぼくの三年とうげ	3-(1)-イ	個性・能力の伸長	特別活動	4 50
18	いっつもそうや	2-(2)-ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	4 51
19	半日村	3-(1)-ア	「市民意識」の醸成	国 語	4 52
20	トゥイちゃんが来た	3-(2)-ア	人間関係の活性化	道 徳	4 53
21	ほほえみタウン	2-(1)-イ	人権の歴史と思想についての学習	特別活動	3・4 54
○	委員名簿				55



小学校中学年用教育資料『ほほえみ』の改訂にあたって

全国でいじめに起因する痛ましい事案が相次いで発生し、社会問題になっています。いじめは、決して許されないことです。しかしながら、どの子どもにも、どの学校にも起こり得るものとの認識をもつことが必要です。いじめは相手の人権を踏みにじるだけでなく、生命にかかわる行為であることから、人権教育を進めていく中で、生命を大切にしようとする意欲や態度を育成することが大切です。

また、東日本大震災におけるいわれのない偏見や差別などの人権にかかわる新たな課題が生じ、その対応も必要となっています。そのほか、人権にかかわる社会の状況の変化に伴い、児童虐待やドメスティック・バイオレンス、インターネットによる人権侵害等、様々な課題が山積しています。改めて生命尊重の大切さを痛感するとともに、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む人権教育の重要性が今問われています。

兵庫県教育委員会においては、平成10（1998）年3月に「人権教育基本方針」を策定し、人権という普遍的文化を築くことを目標に人権教育を推進してきました。そして、この方針に基づき、平成14（2002）年3月に小学校中学年用教育資料『ほほえみ』を作成するとともに、各学校において効果的に活用し、自己実現と共生をめざす人権教育の充実を図ってきました。小学校中学年用教育資料『ほほえみ』は、児童の発達段階や特性を踏まえ、人権尊重の精神や自尊感情をはぐくみ、人権教育の基礎を培う内容で構成されており、作成当時としては、非常に斬新な人権教育資料であり、その理念は今なお十分に耐えうるものです。

しかし、作成から10年が経過し、この間、国においては、教育基本法の改正や学習指導要領の改訂、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」の公表などがありました。また、県においては、「人権教育及び啓発に関する総合推進指針」や「外国人児童生徒にかかわる教育指針」などが策定されました。

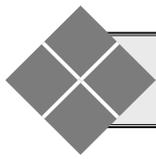
このような国や県の動向を踏まえ、小学校中学年用教育資料『ほほえみ』をより使いやすく、いっそう学習効果が期待できる内容にしていくため、改訂を行いました。改訂にあたっては、教育基本法、小学校学習指導要領、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」等の趣旨に即し、人権を尊重する豊かな心が育ち、「生きる力」の育成につながる観点から編集を行いました。

学校における人権教育は、各学校の児童や地域の実態を踏まえるとともに、発達段階に応じて系統的に実践するものです。小学校中学年において、人権教育の基盤である生命尊重の精神を大切にし、自分を大切にするとともに他の人を大切にするなど、豊かな人間関係づくりを含む人権感覚を育成していくことは、大変重要です。その意味でも、本資料が各学校における人権教育の充実に活用されることを期待しています。

なお、本書の編集にあたり、ご尽力いただきました人権教育資料検討委員会並びに人権教育資料作成委員会の委員の皆様方に対し、心からお礼申し上げます。

平成25年3月

兵庫県教育委員会



小学校中学年用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの編集について

I 改訂について

平成14年3月に作成した小学校中学年用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの見直しにあたっては、以下のように基本方針及び視点や内容を設定し、進めました。

1 改訂の基本方針

- (1) 「教育基本法」(平成18年12月改正)に掲げられた教育の理念を踏まえ、「小学校学習指導要領」(平成20年3月改訂)の趣旨に即した内容としています。
- (2) 「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」(平成20年3月)の趣旨に即し、人権を取り巻く今日的な課題に対応できる内容としています。
- (3) 「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」(平成13年3月)を踏まえ、「人権教育基本方針」(平成10年3月)に基づき、「ひょうご教育創造プラン」(平成21年6月)に即した兵庫らしい特色ある内容としています。

2 改訂の視点

- (1) 資料全体について
 - ア 「教育基本法」、「小学校学習指導要領」、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」等の整合性を保持しています。
 - イ 「人権教育基本方針」に基づき、「小学校学習指導要領」に示された各領域のねらいと内容に即して編集しています。
- (2) 個々の資料について
 - ア 豊かな心情を育むための「文章教材的な資料」
児童の心を揺さぶる力があるかという視点と、時代背景や法改正に照らした内容としています。
 - イ 主体的・活動的な学びを促すための「活動事例的な資料」
参加体験型の手法が、指導方法として効果的であり、事前指導・事後指導において活用しやすい内容としています。

3 改訂の内容

- (1) 教育資料
 - ア 「人権教育基本方針」の推進項目になかった資料を作成しています。
 - イ 兵庫の特色「ひと、もの、こと」を生かした資料を作成しています。
 - ウ 阪神・淡路大震災以降、県内で発生した水害や東日本大震災等の自然災害を扱った資料を作成しています。
 - エ インターネットを悪用したいじめ等による人権侵害の危険性を扱った資料を作成しています。
 - オ 平成13年度に作成した教育資料は今後も十分使用できる内容であり、引き続き活用できます。
- (2) 活用の手引き
 - ア 新規に作成した教育資料に対応した指導例を作成しています。
 - イ これまでの指導例も引き続き活用することは可能としています。
 - ウ これまでの指導例と異なった視点からの展開の指導例を作成しています。

Ⅱ 編集について

1 編集方針

これまでの小学校中学年用教育資料『ほほえみ』の編集方針を引き継ぎ、「人権教育基本方針」に基づき、各教科や道徳の時間、特別活動等における活用を視野に入れ、小学校学習指導要領に示された各領域のねらいと内容に即して編集しています。

2 内容

- (1) 児童が人権を身近に考えられるよう、兵庫県にゆかりのある「ひと、もの、こと」を積極的に取り上げています。
 - ア 阪神・淡路大震災や県内で発生した水害、兵庫と東日本大震災の被災地を結ぶ絆を題材にした資料を作成し、人権教育の基盤である生命尊重や人と人とのつながりの大切さを考えさせていくことをねらいとしています。
 - イ 各地域の豊かな自然を題材にし、環境との共生など身近な生活に結びつけて、日々の生活に生きてはたらく人権意識を育てることをねらいとしています。
- (2) 豊かな人間関係づくりにつながる資料を作成しています。
- (3) インターネット上のいじめ等、人権侵害の危険性に気づかせることをねらいとした資料を作成しています。

3 構成

- (1) 教育資料（右綴じ）

17編を集録しています。
- (2) 活用の手引き（左綴じ）
 - ア 指導例

各教育資料に指導例を提示し、児童や学級の実態やこれまでの学習の積み重ね等を踏まえて、指導者が創意工夫しながら指導計画を作成することが大切です。

また、評価については、児童や学校、地域の実態を踏まえ、人権教育を通して育てたい資質や能力を明確に定め、適切に行うことが重要です。例えば、学習状況や成果などについて、肯定的な児童観に基づき、児童のよい点や学習に対する意欲や態度などを踏まえて適切に評価することが大切です。なお、人権教育の成果は、すぐに現れるものではないため、体系的な指導に十分留意する必要があります。

評価の観点として、次のようなことが考えられます。

 - ・ 学習に主体的に取り組み、課題の解決に向けて積極的に取り組もうとする実践的な意欲や態度を身につけることができたか。
 - ・ 学習活動を通しての気づきを大切に、自分とのかかわりの中で人権課題を捉え、日常生活の変容につなげることができたか。
 - ・ 個別的な人権課題の理解にとどまらず、普遍的な視点から人権の大切さを認識するなど、人権についての学びを深めることができたか。
 - イ 参考資料

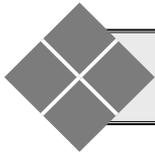
指導者が教育資料にかかわる認識を深めるため、解説や参考文献とその URL 等を掲載しています。

4 活用

兵庫県教育委員会事務局人権教育課ホームページから、ダウンロードして利用してください。

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~jinken-bo/index.html>

※教育資料、挿絵、指導例のデータ



小学校中学年用教育資料『ほほえみ』の活用にあたって

1 児童の発達段階を踏まえた指導方法の工夫

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」では、「学校において人権教育に取り組むに際しては、児童生徒が心身ともに成長過程にあることを十分に留意した上で、それぞれの発達段階に即した指導を展開することが重要である。」としています。その中で、小学生の発達段階に即した指導方法の工夫として、以下のように述べられています。

小学校1～3学年では、想像力、言葉による理解力、認識力が次第に育ってくる。抽象的な思考もできるようになる。また、生活の場を離れて、いわば時空を越えて、他者や歴史的な事象にも思いを馳せることができるようになってくる。ただし、まだ幼児期の特性も残っている。

このような特性を踏まえて、人権教育においても、生活体験に基づく「気付き」から想像力や認識力に訴えて深い理解に導くような配慮が必要である。また、絵本やお話の本などを活用することで、想像力を育てることも大切である。

小学校4～6学年では、言葉の数も増え、概念を理解し、抽象的な思考が深まっていく時期である。認識力、分析力、批判力等も身に付くようになり、自意識も次第に強くなる。

この段階の児童は、そうした諸能力の発達の結果、人権の意義や重要性を知的に理解することができるようになる。しかし、その知的理解が抽象的なものに止まらないためにも、体験的な学習を併用して、具体的人権問題を直感的に「おかしい」と認知する感性の育成を図ることが求められる。

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」

今回の小学校中学年用教育資料『ほほえみ』の改訂において、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てることをねらいとした文章教材的な資料、体験的な学習を通して人権感覚の涵養をねらいとした資料等を新たに作成していますので、指導者の創意工夫で児童の発達段階に応じた効果的な指導が可能となります。

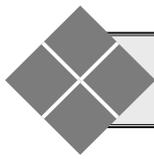
2 児童等の実態に即した指導方法の工夫

各教育資料の活用については、掲載している指導例を参考に、児童や学級の実態等を踏まえ、十分に検討を重ねてよりよい指導案を作り出していくことが大切です。

教育資料によっては、指導例に例示しているものとは別の視点や異なる領域で扱うことができます。文章教材的な資料に体験を取り入れるなどの展開を工夫したり、児童や学校、地域の実態や課題に即した資料を新たに開発するなど、創意工夫のある取組を期待します。

○ 指導例について

<分類>	「人権教育基本方針」の内容項目による分類を示しています。
<領域>	教科、道徳、特別活動（学級活動）の別を示しています。 道徳については、主として関連のある内容項目を示しています。
<ねらい>	各領域における目標や活動の内容に即して記しています。
<趣旨>	主題等と人権教育との関連や教育資料の概要、ポイント等、指導にあたっての基本的な考え方や留意点等、特に必要なものについて挙げています。
<配慮事項>	指導にあたって、指導者（教師）が知っておくべきことや気をつけなければならないこと等、特に配慮すべきことを記しています。
<参考>	学習を深め、広げるために参考となる資料や解説、補充等を記しています。



人権教育の内容構成

□人権教育課

〈 内 容 〉	〈 重 点 目 標 〉	〈 推 進 項 目 〉
<p>1 人権としての教育</p> <p>すべての人に対して、とりわけ差別や偏見などによって十分に学ぶことができない人に対して学習機会の提供に努め、自己実現を支援する。</p>	<p>(1)自ら学ぶ力の育成</p> <p>学ぶことから疎外された人が、学びに出会い、その素晴らしさを知ることによって、自ら学ぶ力を身につけることを支援する。</p> <p>(2)自己についての肯定的な認識の形成</p> <p>自尊感情の形成を促すとともに、自分と社会についての確かな認識を培い、アイデンティティを確立することを支援する。</p>	<p>ア学びとの出会いの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・識字、基礎学力、民族文化等に関する学習機会の充実 <p>イ基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語能力・表現力の育成 ・情報活用能力等の育成 <p>ア自尊感情の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の生活背景の肯定 ・個に応じた指導方法と評価 <p>イ自分と社会についての認識の啓培</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き立ち・将来の可能性 ・伝統・文化・歴史等の探求
<p>2 人権についての教育</p> <p>生命の尊厳や人権の概念と価値についての認識を培い、すべての人の人権が尊重される社会を築いていこうとする意欲や態度の育成を図る。</p>	<p>(1)人権意識の高揚</p> <p>生命の尊厳を基礎として、憲法、人権の歴史、平和と人権にかかわる問題、国際的な人権思潮などについての認識を培い、人権意識を育てる。</p> <p>(2)差別解消への態度の形成</p> <p>差別や偏見の不当性とその解消をめざす人々の生き方の学習などを通して、人権問題に積極的に取り組もうとする意欲や態度を培う。</p>	<p>ア生命の尊厳についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間、生命と人権 ・感動体験、身近な生命 <p>イ人権の歴史と思想についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権をめぐる歴史 ・憲法と人権関係国際文書 <p>ア差別と人権問題についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部落差別、障害者差別 ・いじめ、プライバシー等 <p>イ人権の擁護とその活動についての学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司法と人権擁護制度 ・国連や人権 NGO・NPO の活動
<p>3 人権を尊重した生き方のための資質や技能を育成する教育</p> <p>人権尊重の理念に基づいて、人と人が豊かに共生していくために必要な資質や技能の育成を図る。</p>	<p>(1)自立向上の精神の育成</p> <p>自立心を育てるとともに、個性や能力を伸ばすことの素晴らしさに気づかせ、仲間のなかで自分を高めていこうとする態度を育てる。</p> <p>(2)思いやりの心の育成</p> <p>さまざまな個性をもつ人々との出会いと交流を通して、自他の違いを認め合う態度や豊かな人間関係を築くための資質、技能を身につけさせる。</p>	<p>ア「市民意識」の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己決定、自立心、責任 ・問題発見・解決能力の育成 <p>イ個性・能力の伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択肢の多い教育活動の展開 ・自己実現への展望、自己評価 <p>ア人間関係の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重とルールやマナーとの関係の理解 ・異質な存在との交流とコミュニケーション力 <p>イ社会参加の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・コミュニティ活動への参加 ・地域への教室進出、開かれた学校
<p>4 学習者の人権を大切にしたい教育</p> <p>教育指導や学習の環境が、学習者の人権を尊重したものとなるよう、「児童の権利に関する条約」等の趣旨もふまえ、その充実に努める。</p>	<p>(1)一人一人を大切にしたい教育指導</p> <p>学習者の興味や関心などに応じて、自主的、主体的な学習を促す教育指導に努める。</p> <p>(2)学習環境と条件の充実</p> <p>学習者の個性と能力を伸ばさせるため、学習環境と条件の充実に努める。</p>	<p>ア学習者の権利と責任の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心に応じた学習活動 ・学習集団の育成と規範意識 <p>イ個を生かす集団の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互受容的な人間関係の醸成 ・自発的・自治的活動の活性化 <p>ア指導者の人権意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちをより深く理解する視点 ・隠れたカリキュラムの見直し <p>イ教育条件の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弾力的な教育課程の編成 ・学習環境・設備の充実

※「人権教育基本方針」(県教委 平成10年3月策定)で示された4つの内容について整理した資料です。

小学校教育資料『ほほえみ』系統表①

内容	重点目標	推進項目	低学年 (平成12年度版)	中学年 (平成13年度版)	高学年 (平成13年度版)	
2 人権についての教育	(1) 人権意識の高揚	ア 生命の尊厳についての学習	道 ほくってたからもの (共) 生 あったかいね (2年) 道 小さなカレンダー (2年) 国 ぞうれっしゃがやってきた(2年)	総 がんばれいのち (3年)	学 読めるかな (5年) 道 ねたきりのおばあちゃん (5年) 国 ほっほっほー (5年) 総 命のビザ (6年) 総 平和な世界をめざして (6年)	
		イ 人権の歴史と思想についての学習	道 なまえ (1年) 学 ないと こまるもの (1年) 学 わたしはわたし (2年)	学 こんな「ちがひ」は (3年) 学 ほほえみタウン (共) 総 わたしたちのまちはどんなまち? (共)	学 もしも、世界がひとつの村なら (5年) 学 「権利」の木 (6年)	
	(2) 差別解消への態度の形成	ア 差別と人権問題についての学習	道 となりのたぬき (1年) 道 あやかちゃん あそぼ (1年) 学 自分らしく (共) 道 あなたなら (2年)	道 だいこんとにんじん (3年) 国 島ひきおに (共) 道 いっつもそうや (4年)	道 ナイスキャッチ (共) 道 このままやったら (共) 道 弟にはく手 (6年) 道 百日かせぎ (6年) 社 わたしたちが主役 (6年)	
		イ 人権の擁護とその活動についての学習	道 ちっともおもしろくない (2年) 生 さがしてみよう (2年)	学 うしろの正面、だ〜あれ (4年)	総 知りたいな、子どもの権利条約 (6年)	
	3 人権を尊重した生き方のための資質や技能を育成する教育	(1) 自立向上の精神の育成	ア 「市民意識」の醸成	学 すてきな一日 (1年)	学 やくそくげんまん (3年) 道 ありがとう (3年) 道 おい、わたしの口 (4年) 国 半日村 (4年)	学 こんなこと、あんなこと (5年)
			イ 個性・能力の伸長	学 ともだち 大すき (1年) 道 はずかしがりやのかばくん (共) 道 大きくなったら (共)	学 まほうのかがみ (3年) 道 だいじょうぶ (4年) 学 ぼくの三年とうげ (4年)	道 お父さん かつこいいやん (5年) 道 フロリダからのかぜ (共)
(2) 思いやりの心の育成		ア 人間関係の活性化	道 まほうのことば (1年) 道 とんとん しっ (1年) 学 しゅわで おはなし (共) 道 パクさんと いっしょに (2年)	道 で・き・た (3年) 国 土のふえ (3年) 総 世界の文化ウォッチング (3年) 学 こんばんは (共) 道 トウイちゃんが来た (4年)	道 ひとつになったひびき (5年) 学 わたしを伝える (共) 学 自分もOK、みんなもOK (6年) 道 聞いてもらいたいこと (6年) 学 情報社会を生きる (共) 社 日本でくらす外国人 (6年)	
		イ 社会参加の促進	生 うれしいね たのしいね (共) 道 かぞくはひとつ (2年) 道 ふれあいまつり (2年)	総 子ども自然調査隊〜川をさぐる〜 (3年) 道 町のたから (共) 道 半分のおにぎり (共)	道 よみがえれ日本海 (5年) 社 町の石ひ (5年)	

※国=国語 社=社会 生=生活 道=道徳 総=総合的な学習の時間 学=特別活動(学級活動)
※共=2学年共通

小学校教育資料『ほほえみ』系統表②

内容	重点目標	推進項目	低学年 (平成 23 年度版)	中学年 (平成 24 年度版)	高学年 (平成 24 年度版)
1 人権としての教育	(1)自ら学ぶ力の育成	ア 学びとの出会いの促進		学 みんなのえがお (3年)	道 「学ぶ」ということ (6年)
		イ 基礎・基本の定着			
	(2)自己についての肯定的な認識の形成	ア 自尊感情の形成		道 ぼくの名前 (4年)	学 わたしの好きなこと (共)
		イ 自分と社会についての認識の啓培			
2 人権についての教育	(1)人権意識の高揚	ア 生命の尊厳についての学習	道 はるかのひまわり (2年)	学 つながる心「ありがとう」(共) 道 一まいのかん板 (共)	総 美しい兵庫をいつまでも (5年) 道 命のきずな (共)
		イ 人権の歴史と思想についての学習		学 インターネットの世界 (共) 総 やさしいまち (共) 学 あなたはどう思う? (4年)	道 媽媽 (ママ) の願い (6年)
	(2)差別解消への態度の形成	ア 差別と人権問題についての学習	学 どうしてだろう (共) 道 いっしょにあそぼ (2年)	道 たけしさんのスピーチ (3年)	学 心に残った「あのこり笑顔」(5年) 道 ぼくの夢 (共) 社 さと子ばあちゃん (6年)
		イ 人権の擁護とその活動についての学習		道 わくわくボード (4年)	
3 人権を尊重した生き方のための資質や技能を育成する教育	(1)自立向上の精神の育成	ア 「市民意識」の醸成	道 たのしい えんそく (1年)		
		イ 個性・能力の伸長	道 ゆめみたい (1年)	道 さくら先生のみみつ (共) 学 お別れ会 (4年) 道 わたしたちのリレー (4年)	道 ちょっぴり成長したぼく (共)
	(2)思いやりの心の育成	ア 人間関係の活性化	道 どうしたの? (1年) 学 たのしく あそぼう (共) 道 るすばん (共) 道 見まもり隊のおじいさん・おばあさん (2年)	学 自分を大切に 友だちも大切に (3年) 総 発見! 世界の文化 (3年) 道 みんなちがってみんないい (共)	総 情報化社会、何を大切に? (共) 道 祖父母のためにできること (共) 道 仲良し活動 (6年) 総 情報化社会を生きる (共) 総 とともに生きる社会 (6年)
		イ 社会参加の促進	学 しあわせはこべるように (共)	理 自ぜんを守り隊 (3年) 道 地いきの人といっしょに (4年)	道 伝統の獅子舞 (5年) 総 届けたい、お米と心を東北へ (6年)

※社 = 社会 理 = 理科 道 = 道徳 総 = 総合的な学習の時間 学 = 特別活動 (学級活動)
 ※共 = 2学年共通

No.	①	分類	1-(1)-ア	資料名	みんなのえがお	学年	3年	領域	特別活動（学級活動）
-----	---	----	---------	-----	---------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 仲間とともに学習したり生活したりすることの楽しさや素晴らしさを見つめ直す。

2 趣旨

- 本資料は、友だちをはじめ、様々な人々と関わり合いながら学校生活を送っている様子が描かれている。描かれている人たちの生き生きとした様子を手がかりに、「みんなのえがお」につながる行動や気持ちを考えさせたい。
- 様々な人々との関わりの中で、自ら学び、進んで周りの人と関わろうとする意欲を育てたい。

3 配慮事項

- 「笑顔で過ごすことがよい」という形式的な捉え方にならないようにする。「笑顔でない」様子から、そのわけや気持ちを考えさせ、人と関わり合うことの楽しさや素晴らしさに気づかせることが大切である。
- 絵に描かれている要素の中から、子どもたちの実態に応じて焦点化し提示してもよい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 絵を見て、笑顔で過ごしている様子について話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">えがおの人は、どんなことをしていますか。また、えがおのわけを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場で友だちと遊んでいる。 (友だちと一緒にいると楽しいから。) ・ 教室でみんなで勉強している。 (わかるようになるとうれしいから。) ・ 地域の人に元気にあいさつをしている。 (人と関わることは楽しいから。) ・ 楽しそうに一人で本を読んでいる。 (好きなことをしている時は楽しいから。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習や遊びなどの場面ごとに着目し、楽しそうにしている表情や活動の様子から、仲間と関わることの楽しさや素晴らしさに気づかせる。 ・ 日常生活で自分が笑顔になる時を想起し、人とふれあう以外の笑顔になる場面に気づかせる。 ・ 「一人はさびしい」という固定的な捉え方にならないように留意する。
<p>2 笑顔でない様子について話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">えがおでない人を見つけ、そのわけを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けんかをしている。 ・ 本を読んでいる。 ・ 一生懸命に走っている。 ・ 友だちに「大じょうぶ？」と声をかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔以外に、どのような表情があるかを見つけ、一生懸命だったり真剣だったりする表情のよさがあることに気づかせる。
<p>3 みんなが笑顔になるようにするために、どうすればよいかを考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">みんなが、えがおになる方ほうについて考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間に、声をかけ合い、みんなで遊ぶ。 ・ 友だちをいじめたり、仲間はずれにしたりしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の行為を責めるのではなく、目標をもって頑張ったり、お互いを認め合ったりするなど、一人一人が笑顔になれる学級づくりにつなげる。

No	②	分類	2-(2)-ア	資料名	たけしさんのスピーチ	学年	3年	領域	道徳	2-(3)
----	---	----	---------	-----	------------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 仲間のよいところに目を向け、外見や性格などによる先入観で判断することの誤りに気づき、相手を認め大切にしようとする意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 友だちに対して先入観ではなく、その人の個性や特徴を認めていく態度を育てることが、豊かな人間関係を構築させる上で大切なことである。
- お互いに相手のことを知り、個性を認め合う学校生活ができる学級の温かい雰囲気をつくっていききたい。

3 配慮事項

- 学級活動「友だちのよいところ見つけ」等の事前学習として本資料を扱うことにより、活動のねらいに迫れると考えられる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 変化していく「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「わたし」は、たけしさんのことをどのように思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たけしさんのよいところが、思いつかない。 ・ たけしさんは、おとなしいし発表の声も小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ たけしさんのよさがなぜ思いつかないのかを考え、今までたけしさんと関わりをもとうとしていなかったわたしの姿を捉えさせる。 ・ 「何か一つぐらいてきとうにスピーチしたらいいよね。」と決めたわたしの姿から、わたしがたけしさんのことをどのように思っているかを考えさせる。
<p>2 家に帰ってからの「わたし」の思いを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たけしさんのスピーチを聞いた時、「わたし」はどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たけしさん、すごい。 ・ 「わたし」が気づかなかったことを見つけていた。 ・ 何だか悪いことをしたような思いがした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして「すごい」と心の中でつぶやいたのか、また、どうして悪いことをしたような思いがしたのかを考えさせ、わたしのたけしさんに対する見方が変わってきていることを捉えさせる。
<p>3 どうしたら友だちのよいところを見つめることができるかを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「わたし」は、明日のスピーチでたけしさんのことをどのように言おうと考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たけしさんは、友だちのことをよく考えています。 ・ たけしさんは、友だちのよいところをいっぱい見つけることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ たけしさんのスピーチの姿が頭の中に浮かんでくる様子から、たけしさんのことをしっかり見ようとするわたしの思いに気づかせる。 ・ 自分自身の日常生活を振り返り、外見や誤った認識などの先入観で友だちを見ていないか確認し、友だちのよさに目を向けようとする意欲や態度を身につけさせる。

No.	③	分類	3-(2)-ア	資料名	自分を大切に 友だちも大切に	学年	3年	領域	特別活動（学級活動）
-----	---	----	---------	-----	----------------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 相手の気持ちを考えながら自分の思いを伝えることの大切さに気づき、自分も相手も大切にしたいコミュニケーション力を身につける。

2 趣旨

- アサーションとは、自分も相手も大切にしていこうとするコミュニケーションであり、豊かな人間関係を構築するうえで大切な資質・技能である。
- 資料は、基礎編（「3つの伝え方」と、演習編（お願いする・謝る・注意する）から構成している。基礎編をロールプレイで体験することにより、受身的、攻撃的、非攻撃的な表現があることを知り、それぞれの伝え方によって相手の受け止め方が違うことに気づかせる。さらに、演習編によっていろいろな場面における伝え方を考えさせたい。

3 配慮事項

- 演習編は、本時の学習後、朝の時間や学級活動等を活用して、短い時間での実施も可能である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 2人組になり、「3つの伝え方」をロールプレイで体験する。	・ロールプレイを通して、頼む人と断る人の両方の気持ちを考え、自分も相手も気持ちのよい伝え方に気づかせる。
2 ロールプレイの感想を話し合う。 ○断る人 なみさん…伝えたいことがわからない。 あきおさん…相手のことを考えていない。 さやかさん…相手も気持ちがよいと思う。 ○頼む人 さやかさんの伝え方がいいな。	・気持ちのよい伝え方のなかに含まれている相手のことを考えて発した言葉に着目し、相手を大切にしながら自分の意見を言う伝え方が大切であることをおさえる。
3 演習編を活用し、自分も相手も気持ちがよい伝え方を考える。 ・お願いする ・謝る ・注意する	・様々な場面を想定し、自分も相手も大切にしたい伝え方について話し合い、一番気持ちのよい伝え方を考えさせる。
4 日常生活の中で、身近な人とのコミュニケーションを振り返る。	・日常生活で同じような場面がないかを振り返り、よりよい伝え方を考えさせ、自他を大切にしたいコミュニケーション力を身につけさせる。

5 参考

- 演習編のねらい
 - ・ 事例①（お願い編）
ブランコ遊びを楽しんでいる友だちの気持ちを想像し、待っている私たちの気持ちの伝え方を考えさせる。
 - ・ 事例②（謝る編）
たかしさんがどう謝り、なおきさんがどう応えるか、両者の立場から考えさせる。
 - ・ 事例③（注意編）
ルールやきまりを守っていないよしおさんに対するの発言は、厳しい口調になりがちである。そのため、事例①、②で気持ちのよい伝え方を学習した後に考えさせる。

○ アサーションについて

アサーションとは、相手のことも配慮しながら、自分の欲求や考え、気持ちなどを、率直に、正直に、その場の状況に合った適切な方法で表現することであり、互いの人権を尊重するコミュニケーションです。

自己表現の形態を次の3つに分けて考えることが多いとされています。

- ① 非主張的（ノン・アサーティブ）な自己表現
常に相手を優先し、自分のことは後回しにする表現
- ② 攻撃的（アグレッシブ）な自己表現
自分中心に考え、相手を見捨てて自分を押し通す表現
- ③ アサーティブな自己表現
自分のことをまず考えるが、相手のことも配慮する表現

◇その他の事例カード◇

演習編①～③以外に、

【断る場面】

【主張する場面】

【謝る場面】

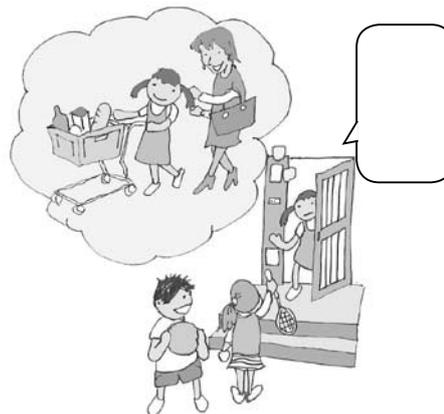
【注意する場面】

の事例を活用して、朝の時間や学級活動の時間等に学習することができる。

※ なお、ホームページから事例カード（カラー）をダウンロードすることができる。

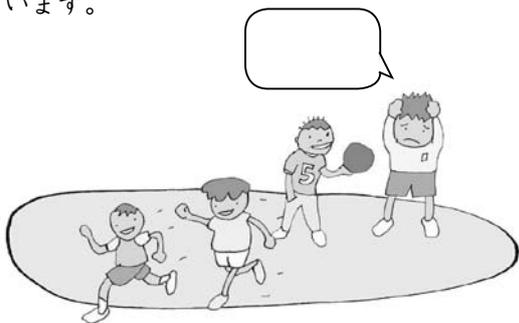
【ことわる場面】

学校から帰った後、「遊ぼう」とさそわれました。でも、今日はお母さんの買い物を手つだうやくそくがあるので、ことわりたいと思っています。



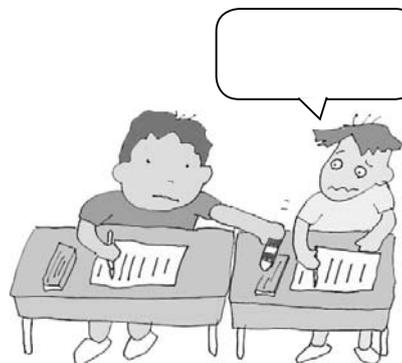
【主ちょうする場面①】

休み時間にドッジボールをしました。休み時間が終わる時、「ボールを元の場所にかたづけといて。」と友だちから言われました。きのうもわたしがかたづけたので、今日はちがう人におねがいたいと思っています。



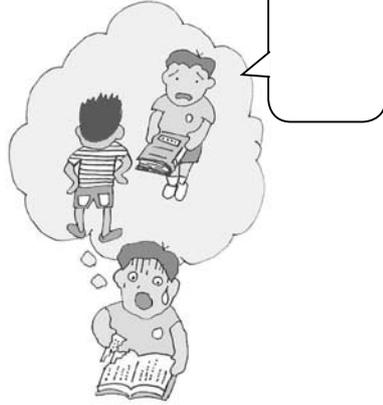
【主ちょうする場面②】

となりのせきの友だちに、勝手に消しゴムが使われました。わたしは、使う前にひとこと言ってほしいと思っています。



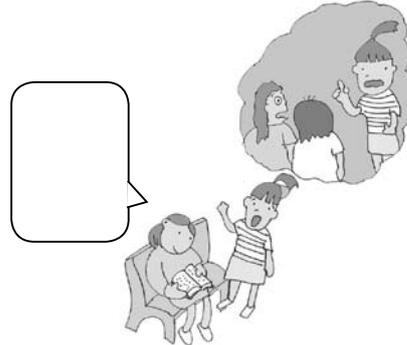
【あやまる場面①】

友だちにかりていた本のページをやぶってしまいました。次の日にどう言って友だちに返そうか考えています。



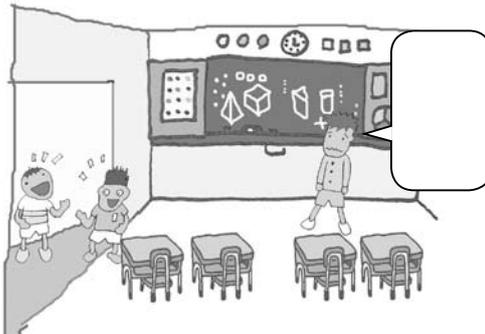
【あやまる場面②】

読書にお中で、ゆりこさんに話しかけられたのに気づかずにいました。すると、ゆりこさんが「むしをされた」と、ほかの子に言っているのを聞いてしまいました。気づかなかったことをゆりこさんにあやまろうと思っています。



【注意する場面①】

休み時間に、当番が黒板の字を消すことになっています。休み時間が終わるころ、当番はまだ黒板の字を消さずにろう下で楽しそうに話しているから、黒板の字を消すように注意しようと思っています。



【注意する場面②】

そうじ時間に、同じそうじ場所の友だちが、ふざけてぞうきを投げて、そうじをさぼっているから、ふざけないように注意しようと思っています。



No.	④	分類	2-(1)-ア	資料名	つながる心「ありがとう」	学年	3・4年	領域	特別活動（学級活動）
-----	---	----	---------	-----	--------------	----	------	----	------------

1 ねらい

- 東日本大震災における被災者の気持ちにふれ、命の大切さに気づき、前向きに生きていこうとする意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 自分たちの支援が被災地に届き、現地の人々の勇気や心の支えになっていることに気づかせる。
- 阪神・淡路大震災時には、人々の助け合いによって厳しい状況を乗り越えてきたことを知らせる。
- 大切な人を失った人の悲しみが癒されるためには長い年月が必要であり、寄り添うことの大切さについて考えさせたい。

3 配慮事項

- 東日本大震災についての事前学習は必要であるが、知識に偏りすぎないようにする。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 「ありがとう」を読んで感想を発表する。</p> <p style="text-align: center;">「ありがとう」の詩を読んで、どんな感想をもちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人に感謝している。 ・ 最後のところが寂しい感じがした。 ・ どんなおじいちゃんだったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」の言葉の意味を考え、人と人とのつながりの大切さを感じとらせる。 ・ 阪神・淡路大震災においては、国内外からの多くの支援により復旧・復興が進んだことを知らせる。
<p>2 「心とおじいちゃん」を読んで、「心さん」の気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">「心さん」は、どんな気持ちでおじいちゃんを待っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして戻ってこないのだろう。 ・ きっと帰ってくるにちがいない。 ・ もしかして死んでしまったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの二人の関係に着目し、おじいちゃんは、心さんにとってかけがえのない存在であることを感じとらせる。 ・ 震災から2カ月間、おじいちゃんを待ち続けたことに着目させる。
<p>3 もう一度「ありがとう」を読み、「心さん」に手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつも大切にしてくれてありがとう。 ・ 頑張って生きていくよ。 ・ おじいちゃん分までがんばるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なみだがいっぱい出ましたが…」に着目させ、大切な家族を失った心さんの悲しさやそれを乗り越えて生きようとする力強さに気づかせる。 ・ 心さんに手紙を書き、命を大切に、前向きに生きていこうとする姿勢等、自分自身の考え方や生き方を見つめさせる。

5 参考

- ・ 詩「ありがとう」 宮城県気仙沼市立面瀬小学校 菊田 心
3・11大震災復興支援企画「ありがとうの詩」詩集・楽曲集（河北新報社）
- ・ 写真 東日本大震災写真集「市民が伝える気仙沼の大震災」（街の情報誌 浜らいん編集室）

No	⑤	分類	2-(1)-ア	資料名	一まいのかん板	学年	3・4年	領域	道徳	2-(2)
----	---	----	---------	-----	---------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 平成21年に発生した台風第9号災害における人々の姿を通して、助け合い支え合うことの大切さに気づき、自他を大切にしようとする意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 県内で発生した自然災害を通して、命の尊さや共に生きることの大切さを身近に感じとらせる。
- 阪神・淡路大震災から受け継がれる思いやりの心や助け合いの大切さに気づかせるとともに、日ごろから、身近に困っている人がいたら親切にできる心を育てたい。

3 配慮事項

- 実際に水害によって命が失われた地域や関係者にとっては何年たってもデリケートな題材であり、指導や扱いには十分な配慮が必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 水害時の「わたし」の気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">「わたし」は、なぜねむることができなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父が大丈夫か心配だったから。 ・水が家に入ってきて怖かったから。 ・死んでしまうかもしれないと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図等で佐用町の位置を確認し、県内で発生した災害であることを捉えさせる。 ・近所のお年寄りを気遣って飛び出した父の安否や自然の大きな力による被害の状況から、わたしの不安な気持ちや絶望感に気づかせる。
<p style="text-align: center;">「わたし」は、なぜなみだが止まらなくなったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配している人々などから手伝いに来てくれたから。 ・みんなの力になりたいという温かい心にふれたから。 <p>2 父の言葉をもとに、日常生活を通して、今の自分にできることを考える。</p> <p style="text-align: center;">今の自分にできることを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人がいたら声をかける。 ・災害があったら募金をする。 ・地域の人に元気にあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支えてくれる人々の思いにふれ、感謝の気持ちを感じ取り、困難を乗り越える大きな力になるのが人と人とのつながり(絆)であることに気づかせる。 ・人と人とのつながりが困難を乗り越える大きな力になることから、学校や家庭、地域等で日ごろから自分にできることを考えさせる。

5 参考

○ 資料の背景について

佐用町南部の久崎地区は、千種川と佐用川の合流地点であり、以前から水害の多い地域であった。そのため、過去の度重なる水害経験から、日ごろから絶えず川の様子を観察し、常に声をかけ合い協力する「自助共助」の精神のもと、2.7mまで水位が上がった平成21年の大水害においても、一人の犠牲者も出していない。また、佐用町では、普段から水害の多い南部地域を北部地域が支援する地域間連携を図っており、水害時には、泥上げや炊き出し等の支援活動が盛んに行われた。

○ 平成 21 年台風第 9 号災害について

・ 災害の概要

平成 21 (2009) 年 8 月 8 日、日本の南で発生した熱帯低気圧は北上しながら 9 日 15 時に台風第 9 号となり、10 日に紀伊半島の南、11 日には東海と関東の南を通して、日本海の東海上へ進んだ。この熱帯低気圧及び台風周辺の非常に湿った空気の影響で、8 日から 11 日にかけて九州地方から東北地方の広い範囲で大雨となった。兵庫県では大気の状態がたいへん不安定になり、佐用町では 1 時間に 89mm、24 時間に 326.5mm を観測し、佐用町の観測史上最大を記録する豪雨となった。

・ ボランティアの状況

8 月 10 日から 31 日までのボランティア活動者数は、団体受付 10,848 人、個人受付 5,107 人の合計 15,955 人であった。また、地元の県立佐用高等学校の生徒をはじめ、県内各地からたくさん的高校生も復旧ボランティアに奔走した。

「地域防災データ総覧」(平成 23 (2011) 年 2 月 消防防災博物館)

<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi>

神戸新聞 平成 21 (2009) 年 8 月 26 日 (水)

神戸新聞 2009年08月26日 水曜日 面名 朝三社 13 27ページ



山出しの家からパツリレで土砂を運び出す高校生(高田裕司)の生徒ら10日、兵庫県佐用町久崎(撮影)

豪雨禍の佐用町、宍粟市

兵庫県西、北部の豪雨で被害が集中した佐用町や宍粟市に、多くの県立高校生がボランティアとして入っている。県教委によると、23日現在、少なくとも17校、延べ約1400人に上る。夏休み中のため、部活動単位の参加が目立つが、学校ぐるみで参加者を募集したところもある。(1面参照)

復旧に高校生パワー続々
17校1400人が奔走

県教委は発生から2日後の11日、県立高校各校に、生徒がボランティア活動で使う重手や長靴、スコップなどを購入する際の助成を通じた。県教委によると、同日から1日当たり3、6校のペースで高校生がボランティアに参加するようになった。

地元の佐用高校などは連日活動しているが、神戸北高校(神戸市)や兵庫高校(同)など遠方からも出向している。また、教職員もこれまでに延べ約300人が活動した。生徒7人の自宅が床上浸水した龍野高校(たつの市)では、参加者を募ったところ、予想を上回る生徒14人と教職員16人が希望。急ぎ、大小のバス4台で被災地に送り出した。同校は「被災地での活動を通じ、生徒たちが今回の水害をかなり深刻にとらえている様子がうかがえる」としている。(菅見真一郎)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

○ 県内に被害をもたらした主な水害等

- ・ 平成 16 年台風第 21 号災害 (平成 16 年 9 月 26 ~ 30 日)
- ・ 平成 16 年台風第 23 号災害 (平成 16 年 10 月 19 ~ 21 日)
- ・ 平成 23 年台風第 12 号災害 (平成 23 年 9 月 2 ~ 4 日)
- ・ 平成 23 年台風第 15 号災害 (平成 23 年 9 月 19 ~ 22 日)

(地域の風水害対策情報 [CGハザードマップ]「過去の洪水記録」兵庫県県土整備部技術企画課

<http://gakusyu.hazardmap.pref.hyogo.jp/bousai/kouzui/history/>)

○ 参考資料

- ・ 「平成 21 年 8 月 9 日 (日) 豪雨災害の状況と本校の取組」(平成 22 年 3 月 県立佐用高等学校)
- ・ 「台風第 9 号災害検証報告書」(平成 22 年 7 月 佐用町台風第 9 号災害被害検証委員会)
- ・ 「平成 21 年 8 月大水害を忘れないために」(平成 22 年 8 月 佐用町民生委員児童委員協議会)
- ・ 「ほくたちの夏」(平成 22 年 12 月 佐用町立佐用小学校 道徳教育研究発表会資料)
- ・ 「台風第 9 号災害の被害状況について」(平成 23 年 12 月 佐用町)

○ 掲載写真

教育資料 P. 8 防災システム研究所

教育資料 P. 9 赤穂民報社

No	⑥	分類	2-(1)-イ	資料名	インターネットの世界	学年	3・4年	領域	特別活動（学級活動）
----	---	----	---------	-----	------------	----	------	----	------------

1 ねらい

- インターネットの便利なところやこわいところを知り、人権侵害等の危険性に気づくとともに、インターネットの正しい使い方を知る。

2 趣旨

- インターネットの普及やブログ、掲示板やゲーム機同士での交流等をきっかけに人間関係が悪化している例がある。インターネットとの出会いが低年齢化しているなか、情報モラルの必要性を認識させることが大切である。

3 配慮事項

- インターネットと自分自身の関わりを想起させるために、自分たちの経験をもとにインターネットの便利さやこわさを考えさせ、さらに危険性や人権侵害への気づきにつなげる。
- インターネットを家庭で利用していない児童については、学校での体験を想起させる。
- インターネットによる人権侵害等については、児童だけでなく家庭への啓発も必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 生活の中で、インターネットを使っている場面を考える。 2 インターネットの便利なところ、こわいところを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">インターネットの便利なところ、こわいところは何だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○便利なところ <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの情報を知ることができる。 ・ゲームができる。 ○こわいところ <ul style="list-style-type: none"> ・間違った情報がある。 ・名前や住所を知られると悪いことに使われることがある。 ・悪口を書き込まれることがある。 3 インターネットで、自分たちが傷ついたり困らせたりしたことや傷つけられたことを考える。 4 インターネットの正しい使い方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">インターネットの正しい使い方を考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・名前や住所、顔写真を載せない。 ・悪口を書かない。 ・困ったら家の人に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機、タブレット等、身近でインターネットを活用していることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを使った経験や聞いた話などを想起し、便利なところやこわいところを考えさせる。 ・児童から発言が出てこない内容は、指導者がイラストを提示し考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・参考事例（P 17）をもとに、こわい思いや困ったりした例、加害者となった例を伝え、思いやりやモラルの低さが人権侵害につながることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・こわいところとして挙げた事柄に、どう対応したらよいかを話し合わせる。 ・個人情報の管理や相談体制等について知り、自分で考えて正しく使おうとする意欲や態度を身につけさせる。

5 参考

○ 「こわいところ」についての対応方法

・いくつかの情報を見比べて、正しいか判断する。
・子ども向けのサイトを使う。
・むやみに大人用のサイトにアクセスしない。

・自分（他人も）の名前、住所、顔写真等の個人情報は教えたり、書き込んだりしない。

・書き込む時は、責任をもてる内容だけを書く。一度書いたら、その情報がコピーされて拡散するため、完全に消すことはできない。

・知らない人に「会おう」と言われても、絶対に会わない。

・インターネット依存症（インターネットへ過剰に依存した状態）の危険性、睡眠不足や昼夜逆転による身体への影響等に気づかせる。

・インターネットを使う時間や場所、お金の使い方等のルールを家の人と確認する。
・親がお金を払っていることに気づかせる。

・相手を怒らせたり、傷つけたりするような書き込みはしない。
・相手を目の前にして言えないことは、インターネット上でも書かない。

【その他】
・困ったときはすぐ親等の大人に相談する。

○ 参考事例

【こわい思いをしたり、困ったりした小学生の事例】

- ・ 掲示板に参加した時、お互いの顔が見えないために、意図せぬ捉え方となったことから中傷バトルになった。
- ・ 通信のできるゲーム機で知り合った顔も住所も知らない人から、「会おう」という誘いのメールが来た。だれにも相談できず、こわい思いをした。

【犯罪に関わり補導された小学生の事例】

- ・ ゲームに参加している友だちのキャラクターが見たくて、他の友人からパスワードを聞き出し、その子になりすましてアクセスし、不正アクセス禁止法違反で補導された。
→ 他人のIDやパスワードを勝手に使うことは不正アクセス禁止法に反する。違法に使うことを分かってIDやパスワードを教えることも違法となる。
- ・ インターネットで「〇〇県の小学生の女子を〇月〇日〇時に殺します。」と殺害予告をした。本人は面白半分で書きこんでいた。
→ 犯行予告の書き込み行為は、業務妨害や脅迫などの罪になることがある。

○ 関係機関等

- ・ ひょうごインターネット安全利用推進機構 <http://www.netsafe.jp/>
- ・ 「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究（平成23年度版）」
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html
- ・ 「ネット社会の歩き方」 <http://www.cec.or.jp/net-walk/>

No	⑦	分類	3-(1)-イ	資料名	さくら先生のひみつ	学年	3・4年	領域	道徳	2-(2)
----	---	----	---------	-----	-----------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 人と人とのつながりを大切にする生き方にふれ、相手を思いやり仲間の中で自分を高めようとする。

2 趣旨

- 自分が大切にされている実感が喜びとなり、感謝が生まれる。それが大川先生から「さくら先生」、そして山野さんたちへ受け継がれている。「さくら先生」の生き方を通して、これからの自分の生き方を考えさせることが大切である。
- 阪神・淡路大震災当時の学校の状況を知らせるとともに、人と人とのつながりの大切さに気づかせたい。

3 配慮事項

- 「さくらさん」の不安の薄らぎは、みんな一緒という状況と先生から大切にされているという実感からくるものであり、普段からお互いのよさや可能性を認め合える人間関係づくりや一人一人が大切にされていると実感できる学習活動づくりなどを心がけた学級経営が大切である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 阪神・淡路大震災の概要を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育副読本『明日に生きる』等を活用し、震災当時における被災地の学校の様子を知らせる。
2 震災後、学校が再開されるまでの「さくらさん」の気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学校がふたたび始まるまで、「さくらさん」はどんな気持ちだったのでしょうか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地震はもう嫌だ。 ・友だちと話がしたい。 ・早く学校へ行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災当時の様子とさくらさんの様子を重ね合わせて考え、さくらさんのこわくて不安な気持ちに気づかせる。
3 「さくらさん」の不安が薄らいだ理由を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「さくらさん」の不安がうすらいだのはなぜでしょう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・大川先生が遊びに誘ってくれたから。 ・みんなと一緒にだったから。 ・先生のそばにいたら安心できたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスみんなで遊んでいることに着目し、人と人とのつながりや大川先生の呼びかけが、安心感を与えていることに気づかせる。
4 「さくら先生」のひみつについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">山野さんは、「さくら先生」のどんなところをみんなに伝えたいのでしょうか。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなを大切にしてくれているところ。 ・みんなを安心させるところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あたたかさのひみつ」が大川先生からみんなにつながっていったことに気づかせる。
5 人と人とのつながりの中で、自分自身が大切にしたいことを考える。	

No	⑧	分類	3-(1)-イ	資料名	お別れ会	学年	4年	領域	特別活動(学級活動)
----	---	----	---------	-----	------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 一人一人の子どもには個性や能力があり、その多様性について理解するとともに、集団の中で自分を高めようとする。

2 趣旨

- 個人の能力や個性を伸長するには、自分自身の意欲とともに友だちの温かい支えが必要であり、共に伸びようとする意欲や態度につなげる。
- 「ぼく」やかずおさんの言動から、苦手なことに取り組もうとする友だちを応援することの大切さを考えさせるとともに、苦手なことに取り組む、克服しようとするひろしさんの態度に共感させる。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 ひろしさんが、絵を描いてみたいと言った時の「ぼく」の気持ちについて考える。</p> <p>ひろしさんが絵をかきたいと言った時、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしさんのことが心配だな。 ・似顔絵がうまく描けるかな。 ・絵が得意な子に任せればいいのに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任重大であることに着目させ、絵を描くのが得意でないのに立候補したひろしさんの思いと対比させて、ぼくの思いを考えさせる。
<p>クラスがざわざわしている時、「ぼく」はどんな気持ちで聞いていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなも大丈夫か心配しているな。 ・ふじ田先生が喜んでくれるか不安だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスのざわつく様子から、ひろしさんを否定的に捉え、心配している思いに気づかせる。
<p>2 かずおさんの意見を聞いた時の「ぼく」の気持ちについて考える。</p> <p>かずおさんの意見を聞いた時、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かずおさんってすごいな。 ・ひろしさんのためによく言ってくれた。 ・自分もひろしさんを応援したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでひろしさんをおうえんしよう。」と言ったぼくの気持ちを考えさせ、友だちと肯定的に関わり、共に伸びていく素晴らしさに気づかせる。
<p>3 お別れ会に向けて、「ぼく」がどんなことに取り組もうとしているのかを考える。</p> <p>「ぼく」は、お別れ会のためにどんなことをしようとしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花束づくりをしたい。 ・似顔絵に飾り付けをしたい。 ・みんなで協力して取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら藤田先生が喜んでくれるかを考えさせ、相手の立場に立って考えることが大切であることに気づかせる。
<p>4 周りの人に応援されて頑張ることができた経験を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応援された時にどんな気持ちになったかを考え、身近な人の支えや励ましの大切さに気づかせ、互いが支え合い、共に伸びようとする意欲をもたせる。

No	⑨	分類	1-(2)-ア	資料名	ぼくの名前	学年	4年	領域	道徳	1-(5)
----	---	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 名前は自分の存在を表す大切なものであることに気づき、自分自身を肯定的に捉えようとする。

2 趣旨

- 自分につけられた「二つの名前」を通して外国人としての自分を見つめ、本名を名乗ることの大切さに気づいていく「ぼく」の心情が描かれている。児童に自分の名前についての家族の思いや願いを考えさせ、一人一人がかけがえのない存在であることに気づかせる。
- 「ぼく」が本名を名乗ることを決めたのは、周囲の理解が大きく影響したことに気づかせ、外国人の存在を正しく理解しようとする態度を育てる。
- 言葉や文化・生活習慣の違いなどによる偏見や差別がみられることがある。異なる文化や生活習慣、価値観に対する理解を一層深め、すべての人と共生していこうとする態度を育てる。

3 配慮事項

- 本名で生活している児童だけでなく、通称名で生活している児童にも配慮する必要がある。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 自分の名前の由来について発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に自分の名前に込められた家族の思いや願いを調べさせ、一人一人がかけがえのない存在であることに気づかせる。
<p>2 資料を読んで、「ぼく」につけられた「二つの名前」について考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「ぼく」には、なぜ「二つの名前」があるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム人が一人だったら心配だから。 ・いじめられるかもしれないから。 	
<p>3 ベトナムの名前にもどすことに決めた「ぼく」の気持ちについて考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「ぼく」は、なぜベトナムの名前にもどそうと決めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ぼっちではなかったから。 ・ムーランのしっぽに入ったから。 ・お母さんが喜んでくれたから。 ・ベトナムの名前の意味がわかったから。 ・心を込めてつけてくれた名前だから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の名前がつけられた理由を考え、ぼくを心配する家族の思いや願いに気づかせる。
<p>4 ベトナムの名前にもどしてからの「ぼく」の生き方について考える。</p>	

No.	⑩	分類	2-(1)-イ	資料名	あなたは どう思う？	学年	4年	領域	特別活動（学級活動）
-----	---	----	---------	-----	------------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 日常生活の中で、当たり前だと感じていることの中にも、性別についての先入観や必要のない区別があることに気づき、それらを正しく判断しようとする。

2 趣旨

- 「違い」を通して考えさせ、社会や自分の中にある男女に対する固定観念に気づかせる。
- 男性にとっても女性にとっても生きやすい社会をつくるなど、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現をめざす考え方にふれさせる。
- テーマに沿った話し合いを通して、各事例を客観的・多面的に分析し、今後の自らの生き方や考え方に反映させる。

3 配慮事項

- 家庭の様子が述べられた際、その家庭に対し否定的な決めつけがされないように配慮する。
- 事例②～④は分割することで、社会科の仕事の学習や朝の会等を活用して、短い時間での実施も可能である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 男女の「違い」を考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">男の子と女の子には、どんな「ちがひ」がありますか。</p> <p>・服そう ・かみの毛 ・遊び ・習い事 等</p>	<p>・学級や友だちの様子を想起させ、男の子と女の子の違いについて発表させる。</p>
<p>2 事例①について話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">「女の子はスカートをはき、男の子はズボンをはく。」についてどう思いますか。</p> <p>・考えたことがない。 ・決めつけられるのはいやだ。 ・ズボンをはく女の子も多い。 ・当たり前だ。</p>	
<p>3 事例①の話し合いで気づいたことを発表する。</p> <p>・自分の考えで選ぶことが大切である。 ・女の子、男の子ということを決めつけはよくない。</p>	<p>・服の色や髪型などに着目させ、男女の違いに関する自分の考えをもたせる。 ・ズボンをはく女性の気持ちを紹介し、機能性や個性が尊重されていることに気づかせる。</p> <p>・服装や髪型などは男女を問わず様々であることから、当たり前だと思っていることにも性別による固定的な役割分担や先入観があることに気づかせる。</p>
<p>4 日常生活の中で、「なぜかな？」と思う男女に関する事について考える。</p>	<p>・ふだん何気なく見過ごしている性別に関する疑問を振り返らせ、性別による固定的な役割分担や先入観があることに気づかせ、それぞれの人権を尊重しようとする意欲をもたせる。</p> <p>・社会的に形成された性差の中には、男女共同参画社会の形成を阻害しないと考えられるものがあるので、家庭や地域の合意を得ながら進める必要がある。</p>

5 参考

○ 各事例のねらい等

事例① 「女の子はスカートをはき、男の子はズボンをはく。」

服装や髪形などは男女問わず、機能性や個性を尊重し、自分で選択することが大切であることに気づく。

事例② 「女の子のトイレはこ室になっている。男の子のトイレはこ室になっていない。」

これまでは当たり前だったことに疑問をいだき、排泄中の姿を見られたくないという感覚がある男の子がいることに気づく。

事例③ 「電車の運転士や保育士の仕事をしている男の人、女の人。」

自分の将来の夢を描くときに、固定的な性別役割分担にとらわれずに、一人一人の個性と能力を十分に発揮できるように、進路や職業の選択について考えていこうとする。

＜芦屋市内で初めての男性保育士藤原寛さんへのインタビュー＞

職場では、男女の違いを必要以上に意識することはほとんどなく、すぐに打ち解けていった。子どもの頃に男性の幼稚園の先生と出会い、その時から自分も小さい子を育てる先生になると決めていた。その夢がかなってうれしい。今は子どもたちにとってよい保育士になりたいという目標に向かって頑張っている。ぜひ、男性もあきらめず保育士をめざしてほしい。そして、男性も子育てにかかわってほしい。

事例④ 「仕事を休んで子どもの世話をするお父さん、お母さん。」

男性も女性とともに、育児に責任をもって関わることを進めている社会の変化に気づく。

＜兵庫県県民情報センター 西岡容広さんの育児休業取得記から（抜粋）＞

私は、平成23年4月1日から翌年4月末まで、1年1カ月育児休業を取得しました。取得にあたって相談したのは、同僚で取得した男性、育児の先輩でもあるママさん保健師さん、職場の上司の3人です。男性が取得するにはまだまだ勇気がいりますが、一人で悩まず相談することで第一歩を踏み出すことにつながります。（中略）世のお母さん方の子育ての苦勞を知ることでもでき、行政マンとしても貴重な経験となりました。

「ひょうご男女共同参画ニュース」（平成24年9月号 兵庫県立男女共同参画センター）

○ 育児休業取得率の現状

平成19（2007）年の厚生労働省の調査によると、女性の育児休業取得率は89.7%に達する一方、約7割が第一子出産を機に離職している。また、男性の約3割が育児休業を取りたいと考えているが、実際の取得率は1.56%である。平成22（2010）年6月、男女ともに子育てをしながら働き続けることができる雇用環境を整備するための「改定育児・介護休業法」がスタートし、平成23年度の男性の取得率は、2.63%と過去最高となった。男性も子育てができる働き方の実現を応援する様々な取組が行われている。

「育児・介護休業法について」（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/07/tp0701-1.html>

○ 参考資料

・ 「男女共同参画社会の実現をめざす教育の実践に向けて」（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~jinken-bo/danjo/index.html>

No.	①	分類	2-(2)-イ	資料名	わくわくボード	学年	4年	領域	道徳	2-(3)
-----	---	----	---------	-----	---------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 友だちに関わる課題解決の方法を考えるを通して、身近な課題を解決しようとする意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 障害のある友だちを肯定的に受け止めながらその友だちの思いを知り、自分にできる関わり方を考えることが、一人一人を大切にしたい社会を築くことにつながっていくことに気づかせる。
- 学級の友だちの苦手なことを解決していくことで、学級のみんなが楽しく学校生活を送れるようになることに気づかせる。

3 配慮事項

- 学級に障害のある児童が在籍している場合、障害の状況や保護者の気持ち、学級の実態などを十分把握し、連携を保ちながら指導することが必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 「ぼく」のすすむさんへの思いについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ぼく」は、すすむさんのことをどう思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本が好きでいろいろなことを知っている。 ・言いたいことが伝わらないと、泣いたり怒ったりする。 ・関わり方が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしたらいいか分からなくなってしまった」に着目させ、上手くコミュニケーションが取れずに困っているぼくの思いに共感させる。
<p>2 みかさんがすすむさんに声をかけた理由を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ぼく」は、すすむさんに声をかけたみかさんをどう思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の時からよく相談にのっているな。 ・心配しているんだな。 ・いつも気にかけているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みかさんの友だちに寄り添う姿勢に着目させ、この姿勢が相互理解や良好な人間関係を築くことにつながることに気づかせる。
<p>3 「ぼく」が、すすむさんのことをなぜ先生に相談したのかを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ぼく」は、なぜすすむさんのことを先生に相談したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すすむさんが笑顔になってほしいから。 ・すすむさんのことをみんなに分かってほしいから。 ・みかさんの思いを知ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのことで先生に相談した経験を想起させ、先生に相談することは、自分には何ができるかを考えた結果としての行動であることに気づかせる。
<p>4 学級のみんなが、楽しく学校生活を送れるようになる方法を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうしたら学級のみんなが、楽しく学校生活を送れるようになるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人がいたら助ける。 ・問題が起きたらみんなで解決する。 ・いじめは絶対にしない。 ・困ったことがあれば、友だちに相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動等で話し合った議題などを振り返り、身近な課題を自ら解決していこうとする意欲や態度を身につけさせる。 ・学級の課題を取り上げる際は、特定の児童を責めることのないように配慮する。

No	⑫	分類	3-(1)-イ	資料名	わたしたちのリレー	学年	4年	領域	道徳	2-(3)
----	---	----	---------	-----	-----------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 友だち一人一人の存在を大切にしながら、力を合わせてよりよく生活しようとする。

2 趣旨

- 一人一人の存在を大切にし、力を合わせて生活の向上のために努力できることは、共生社会の構成員として個々に求められる重要な資質である。
- はじめて1位になった喜びの中で、「かずやさんがいなかったら…」の言葉にはっとした「わたし」の気持ちについて考えさせるとともに、その葛藤を通して「わたし」が成長する姿を捉えさせる。

3 配慮事項

- かずやさんの具体像については、学級の実態や経験を考慮して、必要に応じて補足しながら捉えさせる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 リレーの思い出について想起する。</p> <p style="text-align: center;">運動会などのリレーで、どんな思い出がありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1位になれてうれしかった。 ・ 抜かれて悔しかった。 ・ バトンを落としてビリになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会や体育等で経験したリレーの順位についての思いを語らせることにより、自分たちがリレーの順位にこだわっていることに気づかせる。
<p>2 1位になった「わたし」の気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">ばんざいをしている「わたし」は、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつもビリだったから、とてもうれしい。 ・ 運動会の本番も1位になりたい。 ・ かずやさんがいないと強いな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大騒ぎしている様子を想像させ、白組のメンバーが初めて1位になって喜んでいる思いに共感させる。 ・ かずやさんに関する「マイペース」などの表現をもとに、かずやさんの人物像を捉えさせる。
<p>3 友だちの言葉にはっとした「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p style="text-align: center;">はっとした「わたし」は、白組のみんなとどんなことを話し合ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなに喜んだらかずやさんに悪い。 ・ 青組はひどいことを言うな。 ・ 全員がそろって走ることの方が大切だ。 ・ かずやさんと走る練習をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白組のメンバーになって話し合いをさせ、全員が力を合わせて頑張ることの大切さに気づかせる。
<p>4 運動会当日のリレーに対する自分の願いを発表する。</p> <p style="text-align: center;">運動会当日、どんなリレーになってほしいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「全員で走ってよかった」と思えるリレーになってほしい。 ・ 一つでも順位を上げて白組みんな喜び合えるといいな。 ・ 他のチームの人たちもかずやさんを一生懸命に応援してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「最高のリレー」の意味について考えさせることにより、一人一人を大切にし、力を合わせて頑張ろうとしている白組に共感させる。 ・ 白組以外の人に対する願いについても考えさせ、みんなが考えるべき課題として捉え、自分の生き方や在り方に反映させる。

No.	⑬	分類	3-(2)-イ	資料名	地いきの人といっしょに	学年	4年	領域	道徳	2-(4)
-----	---	----	---------	-----	-------------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 人と人とのつながりの大切さに気づき、豊かな人間関係を築こうとする。

2 趣旨

- 自分たちの地域を自分たちでよりよくしていこうとする態度はとても大切なことである。また、地域のボランティア活動を通して、世代間交流も生まれてくることを捉えさせる。
- 地域の人との交流を通して変容していく主人公の気持ちから、人と人との温かいふれあいを大切にしようとする態度や高齢者との関わりの中で感謝の気持ちを育てる。

3 配慮事項

- 地域の実情にあわせて、地域のボランティア活動について捉えさせる。
- 子どもたちと地域の高齢者との心温まるよりよい交流についても考えさせたい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 変化していく「ほく」の気持ちについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">集会所に集まってきている人を見て、「ほく」はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど知らない人ばかりだな。 ・参加するんじゃなかったな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おじいさんの話を聞いて、「ほく」はどんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの話は面白いな。 ・初めて出会う人ではないような気がする。 ・この町のことが好きなんだな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ほく」は、なぜおばさんの手をぎゅっとにぎりかえたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よかったね。」という気持ちから。 ・「ほくもうれしいよ。」という気持ちから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほくはこうかいた」の思いから、ほくの今の心境を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんとの出会いを通して、参加したことを後悔していたほくの心境の変化に気づかせる。 ・おじいさんのにこにこした表情等から、まちを愛している思いに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・手伝うことによって相手が喜んでくれたことに着目させ、人と人とのふれあいの喜びを味わえたことに気づかせる。
<p>2 「ほく」の日記の内容について考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ほく」は、日記にどんなことを書いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンデーに参加してよかったこと。 ・地域のことをよくしてくれる人たちに感謝したいこと。 ・今度のクリーンデーも参加したいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との温かい交流がほくの気持ちを変化させていったことをおさえ、人との関わりを大切にしていこうとする姿に共感させる。
<p>3 心に残っている出会いの経験を発表する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みなさんは、どんな出会いが心にのこっていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に入学して、たくさんの友だちができた。 ・大会に行っている人々と話をするようになった。 ・見守り隊の人があいさつをしてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を振り返らせ、人と人との出会いがたくさんあることに気づかせる。 ・様々な人々との温かい交流経験を想起させ、豊かな人間関係を築こうとする意欲や態度を身につけさせる。

No.	⑭	分類	3-(2)-イ	資料名	自ぜんを守り隊	学年	3年	領域	理科
-----	---	----	---------	-----	---------	----	----	----	----

1 ねらい

- 身近な自然を調べることを通して、自然の美しさや豊かさにふれ、自然を守ろうとする心を持ち、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した行動をとろうとする。

2 活用上の留意点

- 自然に興味をもち、身近な自然とふれあう中で、それを守っていこうとする心情を育むことをねらいとし、第3学年理科「しぜんのかんさつ」や第4学年社会科「ごみのしより」での活用が効果的である。
- 「自分にできること」のごみの削減は、身近な問題であり進んで実践しやすい。
- 自然観察に行く場合は、児童の安全に十分配慮する必要がある。

3 掲載資料の解説

○ 兵庫の自然・生き物【写真】

① 豊岡市 コウノトリ

かつては日本中に多く生息していたが、昭和46年、野生のコウノトリは絶滅した。豊岡市では、野生化に向けて、生息可能な環境の整備に取り組み、野外の自然繁殖も進んでいる。

② 多可町 棚田

「岩座神（いさりがみ）の棚田」。「日本の棚田百選」に選定された。平成9年から棚田オーナー制度を始め、都市住民との連携により、美しい田園風景の保全に努めている。

③ 丹波市 日ヶ奥渓谷

多紀連山県立自然公園妙高山系の一角で、深い森林の中、巨岩・奇岩の間を清流が縫うように走る。四季それぞれに自生植物がおりなす美しい景色を見せる。

④ 神河町 砥峰高原

西日本有数の約90haに及ぶススキの草原が広がる高原で県立自然公園に指定されている。新しい芽の育成を促すとともに、美しい自然を守るため、毎年、春に山焼きが行われる。

⑤ 西宮市 夙川の桜

昭和40年に市花に選定。平成2年に「日本 さくらの名所100選」に選定された市は、桜の名所を未来へ引き継ぐため、平成14年から「桜の名所再生事業」に取り組んでいる。

⑥ 加古川市 ギフチョウ

環境省から絶滅危惧2類に指定されている。加古川市の北西部に生息し、「加古川の里山ギフチョウネット」という保護団体が生息地の管理などを行っている。

⑦ 南あわじ市 水仙郷

「ひょうご風景100選」に選定された「灘黒岩水仙郷」。淡路島の冬の風物詩となっている。今から180年前に付近の漁民が、海岸に漂着した球根を植えたことから、繁殖したとされている。

○ 1人1日あたりのごみ排出量（兵庫県）【グラフ】

1人1日あたりのごみ排出量 = (収集ごみ量 + 直接搬入量) ÷ (総人口 × 365) として算出している。ごみ総排出量は年々減少している。全国平均は915g。

○ 910gの見立て【図】

折り紙は100枚130gとして算出している。

○ 3R政策

古紙のほかに缶やペットボトルもリサイクルされます。アルミ缶は地金に、スチール缶は鋼材に再生されてそれぞれ新たな金属製品が作られます。ペットボトルからは卵パックや衣料のフリースなどが作られるほか、ペットボトルに戻す技術もあります。また、プラスチックの容器や包装は、公園のベンチなどになります。(経済産業省「3R政策」)

4 展開例

【導入】 知っていますか、兵庫の自然。

<ねらい>
兵庫県の各地域の自然や生き物の写真を見て、自分たちの身の周りに美しい自然があり、貴重な生き物が生息することを知る。

<活動>
・自分たちの身の周りに美しい自然や貴重な生き物がいないか考える。

【研究課題・活動課題の例】

- ・兵庫県の美しい自然を調べよう。
- ・兵庫県の貴重な生き物を調べよう。



【展開1】 身近な自然を調べてみよう。

<ねらい>
身近な自然を観察し、自然や生き物を守っていききたいという気持ちをもつ。

<活動>
・見つけたことや感じたことを記録する。
・自然を守るために、自分たちにできることを考える。
※児童の意見の中から、ごみを減らすことや再使用、再生利用などへ焦点化する。

【研究課題・活動課題の例】

- ・見つけた草花、野鳥、昆虫等の写真をとったり、スケッチをしたりして記録に残そう。(例：自然観察マップ作成)
- ・兵庫県や自分のまちの自然を守る活動について調べよう。



【展開2】 ごみの量について考えよう。

<ねらい>
ごみを減らし、自然を守ろうとする意欲をもつ。

<活動>
・兵庫県の1人1日あたりのごみの量を理解し、「910 g」のイメージを捉える。

【研究課題・活動課題の例】

- ・自分たちが捨てたごみは、どのように処理されているか調べよう。
- ・家庭や学校などのごみの量を調べよう。
- ・ごみ問題と自然破壊の関係について調べよう。



【展開3】 自然を大切にするにはどうしたらよいか考えよう。

<ねらい>
自然を守るために自分たちにできることを考え、実践しようとする。

<活動>
・自然を守るために、家庭や学校でどんなことができるか考える。
・自分が実践してみようと思うことについて計画を立てる。

【研究課題・活動課題の例】

- ・3R（リデュース・リユース・リサイクル）について調べよう。
- ・自分たちの家庭・地域でのごみの回収方法や資源回収について調べよう。

5 参考

- ごみイラスト 経済産業省
- 参考資料
 - ・ 「兵庫の環境」(兵庫県) <http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/index.html>

No.	⑮	分類	3-(2)-ア	資料名	発見！世界の文化	学年	3年	領域	総合的な学習の時間
-----	---	----	---------	-----	----------	----	----	----	-----------

1 ねらい

- 身近な料理や遊び等を通して、異なった文化や考え方に対する理解を深め、多様な文化をもった人々と豊かに共生しようとする。

2 趣旨

- 身近な遊びを通して、似ているところを見つけたり調べたりすることにより、外国の文化に興味をもち、進んで人々と交流しようとする態度を育てることができる。また、日本と外国のつながりを調べることで日本文化を見直すきっかけになる。

3 活用上の留意点

- 多文化理解にとどまらず、共生の視点をもつことが大切である。
- すべての児童に、自国の文化や歴史を尊重する態度を培うことが大切である。
- 外国につながる児童が在籍している場合は、その児童の自尊感情の形成やアイデンティティの確立に向けた指導が大切である。

4 掲載資料の解説

- こんだてしょうかい
世界地図の国名と写真①～⑧の料理をつないで、どこの国の料理が給食の献立になっているのか見つけるなど、さまざまな国の料理が身近にあることに気づかせる。さらに家庭の料理についても広げていくこともできる。

- | | | |
|---|---------------|---------------------------|
| ① | タンドリーチキン（インド） | ：ヨーグルトや香辛料に漬けて焼いた鶏肉 |
| ② | 麻婆豆腐（中国） | ：挽肉と唐辛子、豆板醤を炒めスープで豆腐を煮た料理 |
| ③ | フェジョアータ（ブラジル） | ：塩漬け豚肉といんげん豆や玉葱の煮物 |
| ④ | ジャーマンポテト（ドイツ） | ：ベーコンと茹でたじゃがいもの炒め物 |
| ⑤ | フォー（ベトナム） | ：鶏肉ともやしとフォー（米粉麺）の麺料理 |
| ⑥ | エスカベッシュ（フランス） | ：揚げた白身魚と玉葱の酢漬け（マリネ） |
| ⑦ | ミネストローネ（イタリア） | ：人参、ベーコン、じゃがいものトマト味スープ |
| ⑧ | チャプチェ（韓国） | ：春雨と牛肉の炒め物 |

（写真：姫路市の小学校給食）

- アジアの遊び【足でける遊び】

- | | | |
|---|------------|---|
| ① | ダカウ（ベトナム） | ：羽根を一人で何回蹴れるかを競ったり、ネットを張ってバレーボールのように試合をしたりして遊ぶ。 |
| ② | チェギチャギ（韓国） | ：穴の開いた硬貨を和紙で巻いて作った羽根を使い、地面に落とさないように蹴り続けて遊ぶ。 |
| ③ | チェンズ（中国） | ：羽根を一人で何回蹴れるかを競ったり、輪になってパス練習のようをしたりして遊ぶ。 |
| ④ | セパタクロー（タイ） | ：藤で編んだボールを使い、バトミントンと同じコートとネットを使って試合をして遊ぶ。 |

- すごろく

- | | | |
|---|-----------------|---|
| ① | ユンノリ（韓国） | ：さいころの代わりに「ユッ」の裏表の出た数だけ駒を進める。 |
| ② | コドゥアグア（ベトナム） | ：さいころの出た数だけ馬型の駒を進める。 |
| ③ | スネークアンドラダー（インド） | ：6個の子安貝をさいころの代わりに使い、出た数だけ進む。
「アジアの子どもの遊び2」（アジアこどもプロジェクト・兵庫県在日外国人教育研究協議会）から |

- 多様な文化との出会い

- ・ 姫路市では、毎年10月末に国際交流フェスティバルが開催され、様々な国の人と交流したり、食や文化を体験したりすることができる。
- ・ 県内各地では、地域の特色を生かした「マダン」等の交流活動が行われている。
オリニマダン（神戸市）、出会いひろば伊丹マダン（伊丹市）、集まろか東はりまマダン（高砂市）等

5 展開例

【導入】給食にはどんな外国の料理があるのでしょうか。

<ねらい>
給食にさまざまな外国料理があることを理解する。

<活動>

- ・写真①～⑧は、それぞれどこの国の料理かを調べる。
- ・自校の給食の外国料理について調べる。

【研究課題・活動課題の例】

- ・自分の家等で食べる外国料理について調べよう。
- ・地域の郷土料理について調べよう。
- ・外国の料理や地域の郷土料理を、外国人や地域の方と一緒に作ってみよう。



【展開1】世界にはどんな遊びがあるのでしょうか。

<ねらい>
アジアの遊び（けって遊ぶ、すごろく）を例に、世界には似た遊びがあることを知る。

<活動>

- ・それぞれの遊びについての共通点を調べる。（日本の遊びにも目を向ける。）
- ・世界のその他の遊びについても調べる。

【研究課題・活動課題の例】

- ・遊び方を調べ、実際に遊んでみよう。
- ・遊びの共通点を調べよう。（羽がついている物をける地域と球形の物をける地域等の共通点がある。）
- ・郷土の遊びについて調べ、遊んでみよう。



【展開2】日本にはいろんな国の人が暮らしています。

<ねらい>
地域の外国人と交流する活動や身近な国について調べる活動を通して、外国人と共生する姿勢を養う。

<活動>

- ・国際交流協会などで、自分たちの住むまちの外国人について聞く。
- ・外国人と交流する方法について考えたり身近な国について調べたりする。
- ・いろんな国の人と、どうしたら共生できるか考える。

【研究課題・活動課題の例】

- ・調べたことをまとめ、学校や地域で発表しよう。
- ・どんな交流がしたいかを考え、外国人と実際に交流しよう。
- ・いろんな国の人と共生するために、自分ならどんなことができるか考えよう。

※紹介された給食のメニューは、姫路市の小学校給食の一例である。

6 参考

○ 参考資料

- ・「外国人児童生徒にかかわる教育指針」（平成12年8月 兵庫県教育委員会）
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~jinken-bo/gaikokujinsisin.html>

○ 関係機関

- ・子ども多文化共生センター <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/index.html>
兵庫県教育委員会では、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒が互いの「違い」を「違い」として認め合い、多様な価値観を受容しながら共に生きようとする意欲や態度を育む、子ども多文化共生教育を推進しています。その中核施設として「子ども多文化共生センター」を開設し、情報提供、教育相談、教材や書籍の展示、貸出、子ども多文化共生サポーターの派遣調整などを行っています。

No.	⑯	分類	2-(1)-イ	資料名	やさしいまち	学年	3・4年	領域	総合的な学習の時間
-----	---	----	---------	-----	--------	----	------	----	-----------

1 ねらい

- 身の周りや自分たちのまちの中にあるバリアフリー等について調べ、思いやりの心や共生の心を大切に、他者を尊重しようとする。

2 活用上の留意点

- 小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の「さがして みよう」の発展として活用できる。
- 学級に障害のある児童が在籍している場合、児童や保護者の願い等を十分把握し、連携を保ちながら指導する必要がある。

3 掲載資料の解説

○ 「やさしさ」の写真

バリアフリーだけでなく、ユニバーサルデザインについて考えることができる写真を掲載した。

- ① 自動販売機の小銭投函場所が広く、小銭をまとめて投入することができる。上段の購入ボタンが販売機中央にもあり、小さい子どもや車いす利用者も購入しやすい。商品取り出し口は自動で開く。【県庁3号館】
- ② 緊急時に緑のランプが回り、聴覚に障害のある方に非常事態であることを知らせる。
- ③ 背の高い人、低い人、子ども用など、自分に合った高さの手すりを使うことができる。
- ④ エレベーター奥には、後方安全確認用鏡がある。左側のいすは、使わない時は上げておくこともできる。押しボタンは低く設置され、ドアを開けておく「延長」ボタンもある。

【②③④三田市総合福祉保健センター】

- ⑤ この案内板は、行き先のバス停名を点字ボタンで入力すると、音声ガイドが何番乗り場から乗車すればよいか自動的に音声で答えてくれるなどの機能がある。【阪急伊丹駅前広場】
- ⑥ 高さのちがう台は、子ども、車いす利用者等、自分に合った高さの台を使うことができる。
- ⑦ 段差のないスロープは、車いす利用者、台車、ベビーカー等が通るときにも便利である。

【篠山市立城南小学校】

- ⑧ 親子で一緒に使え、おむつを替える台があるため小さな子のいる方にも便利である。また、洋式トイレには手すりもついているため、足腰が弱い方にも便利である。

【⑥⑧篠山市立中央図書館】

- ⑨ 多言語で書かれている駅構内の表示。観光客や外国語を主とする方に便利である。【JR三ノ宮駅】
- ⑩ 右上のボタンをクリックすると、背景や文字の色が変わり、自分の見やすい色で読むことができる。音声読み上げ機能もついている。【兵庫県ホームページ】

○ 心のバリアフリー

まちの中では、点字ブロックやスロープの設置など、視覚に障害のある方や車いすを利用する方が生活しやすい環境が広がっている。しかし、すべての場所が整備されているわけではない。

そんなときに大切なのは、周りの人の声かけや助け合いである。2枚の写真をきっかけに、支援の方法を学ばせたい。

○ 身のまわりにあるマーク

国際規格のマークや、市・町独自のマークが存在する。マークに込められた願いを知り、身近にあるマークを見つけることで、いろいろな人のやさしさを感じさせたい。

<p>①  【障害者のための国際シンボルマーク】</p> <p>障害者も利用できる建物、施設であることを示す世界共通のマーク。すべての障害者を対象としている。</p>	<p>②  【盲人のための国際シンボルマーク】</p> <p>視覚に障害のある方の安全に考慮された建物、設備、機器につけられた、世界共通のマーク。</p>
<p>③  【兵庫ゆずり合い駐車場】</p> <p>障害のある方などのための駐車スペースを適正に利用するためにつくられた兵庫県の制度。</p>	<p>④  【耳マーク】</p> <p>聞こえが不自由なことを表す、国内で使用されているマーク。 口を見せてはっきり話したり、筆談したりするなどの配慮が必要。</p>

<p>⑤ 【ほじょ犬マーク】</p>  <p>身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）同伴の啓発のためのマーク。</p>	<p>⑥ 【優先座席】</p>  <p>身体障害者、妊婦、乳幼児連れ、高齢者などの着席を優先させる座席マーク。 (JR 西日本)</p>
---	--

4 展開例

【導入】どんな「やさしさ」があるのでしょうか。

<ねらい>
身の周りや自分たちのまちには、様々な「やさしさ」があることを理解する。

<活動>

- それぞれの写真は、どのような工夫があるかを考える。

【研究課題・活動課題の例】

- 「バリアフリー」について調べよう。
- 「ユニバーサルデザイン」について調べよう。
- ※ バリアフリーは、障害者が社会生活をしていくうえで障壁（バリア）となるものを除去するという考え方。
- ※ ユニバーサルデザインは、すべての人々にとって、できる限り利用可能であるように、製品、建物、環境をデザインするという考え方。



【展開1】まちでこんな場面を見かけました。

<ねらい>
思いやりの心や共生の心の大切さを理解する。

<活動>

- 障害のある方が安心して生活するには、何が必要かを考える。
- いろいろなマークは、なぜ身の周りにあるのかを考える。
- 身の周りにある「やさしさ」を調べる。
- 地域に出かけて、どのような「やさしさ」があるかを調べる。

【研究課題・活動課題の例】

- 自分たちのまちの福祉に関するマークを調べよう。
- 地域に住む高齢者や障害のある方から話を聞いてみよう。
- 身の周りや地域には、どんな「やさしさ」があるか調べよう。



【展開2】いろんな方法で発表しましょう。

<ねらい>
調べたことをさまざまな方法で発表する。

<活動>

- 調べたことを効果的に発表する方法を考える。
- 校内や公共施設等で発表する。
- 「やさしいまちづくりプラン」を作成する。

【研究課題・活動課題の例】

- 調べたことをまとめて、学校や地域で発表しよう。
- 自分たちのまちについて「やさしいまちづくりプラン」を作ってみよう。

No	⑰	分類	3-(2)-ア	資料名	みんなちがって みんないい	学年	3・4年	領域	道徳	2-(3)
----	---	----	---------	-----	---------------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 人はみんな違って誰一人同じ人はいないことを理解し、違いを認め合い、自分も友だちも大切に、よりよい人間関係を築こうとする。

2 趣旨

- 「みんなちがって みんないい」は、違いを認め合い、一人一人の人権を尊重し合うことをねらいとし、あらゆる学習場面で活用できる。

3 配慮事項

- 顔写真に注目させる際は、学級の誰と似ているなどの興味本位の発言ではなく、展開例を参考に目的意識をもって写真を見るように指導する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 写真を見て、気づいたことを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">写真を見て、気づいたことを発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・肌の色が違う。 ・みんな子どもだな。 ・みんな笑顔だな。 ・外国の子もいる。 ・いろいろな服を着ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の表情や肌の色、服装などに着目させることにより、共通点や相違点など気づいたことを発表させる。 ・児童からの発言を整理しながら、誰ひとり、同じ人はいないことに気づかせる。
<p>2 グループで、違いについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分と友だちとのちがいについて考えよう。</div> <p>【外見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな同じ顔や体つきだったら、誰かわからなくなるから。 <p>【性格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違っての方が楽しいから。 <p>【勉強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いができるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の外見や個性、能力が違っていることから、その多様性の楽しさやすばらしさに気づかせる。 ・違いが外見だけの発表になった場合は、性格などの内面にも目を向けさせる。 ・児童から出された違いのすばらしさを板書し、学級はたくさんの違いからなる集団であることを押さえる。
<p>3 よりよい人間関係を築く方法を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分と友だちのちがいを大切にする方法を考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合う。 ・悪口を言わない。 ・友だちの頑張りを応援する。 ・間違ったことをした人には注意をする。 ・自分のよさを認めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児童が、すばらしい個性をもっていることを確認し、そのすばらしさを認め合う方法について考えさせる。 ・自分も友だちも、世界に一人しかいない大切な存在であることを踏まえ、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を養う。

No.	1	分類	1-(1)-ア	資料名	「こっちの方がいいよ」	学年	3年	領域	特別活動（学級活動）
-----	---	----	---------	-----	-------------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 友だちとともに、学習したり生活したりすることの楽しさや素晴らしさを見つめ直す。

2 趣旨

- 資料の写真は、友だちと一緒にグループ学習している場面を表している。「何をしているのだろうか」「どんな話をしているのだろうか」などと投げかけ、写真の中の子どもたちの表情から、友だちとともに楽しく学習していることに目を向けるようにしたい。
- 自分の学習場面や暮らしを振り返り、友だちとの関わりを通して、その時の様子や気持ちを出し合うことによって、自分の周りの友だちや学級を見つめ直すきっかけとしたい。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 写真を見て、気づいたことや感じたことを話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもたちは、どんな話をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしたらいいかな。 ・ ここのところを教えてほしい。 ・ なるほど、わたしもそう思うよ。 ・ その考えはいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ学習をしている様子やその表情から、友だちとともに楽しく学習していることや、互いに言葉を交わしながら話し合ったり学び合ったりしていることに気づかせる。
<p>2 友だちと一緒に学習した時の気持ちを話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">友だちといっしょに学習した時、あなたはどんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな意見が出て楽しかった。 ・ 友だちの考えがよくわかった。 ・ 友だちが認めてくれてうれしかった。 ・ 友だちと一緒に活動して楽しかった。 ・ 友だちが励ましてくれてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと楽しく取り組むことができた学習経験を通して、友だちと関わり合うことの楽しさや素晴らしさに気づかせる。 ・ 嫌だったことや辛かったことなどが出てくることも予想されるが、「どうしたら楽しくできただろうか」と問い返し、次の学習活動につなぐ。
<p>3 これから、友だちと一緒にしたいことや頑張りたいことを発表し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">これから、友だちといっしょにしたいことやがんばりたいことは、どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強を頑張りたい。 ・ 休み時間にみんなで楽しく遊びたい。 ・ 掃除の時間に協力してきれいにしたい。 ・ 協力して体育の準備をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も友だちも大切にすることを考え、友だちと話し合ったり、協力したりして学校生活を送ろうとする意欲をもたせる。

No	2	分類	2-(1)-イ	資料名	こんな「ちがい」は	学年	3年	領域	特別活動（学級活動）
----	---	----	---------	-----	-----------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 身の回りにある様々な「違い」に気づき、それらを科学的に判断しながら文化や個性の多様性を認め、尊重し合おうとする態度を身につける。

2 趣旨

- わたしたちは、多様な「違い」の中で活動している。「違い」を認め合うこと、「あってはいけない違い」に気づくことは、人権感覚を育む上で、重要なことである。
- 「違い」についての自分の考え方を振り返らせ、生き方を見直す機会とする。

3 配慮事項

- それぞれの立場や文化を尊重し、「違い」について良い悪いを決めつけないように配慮する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 4つの「違い」について考える。</p> <p style="text-align: center;">4つの「ちがい」について、自分の考えを發表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手で食べるのはおかしい。 ・お父さんが料理をすることもある。 ・美容院には男の人がたくさんいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを班で話し合うことにより、「違い」が生じる背景に目を向けさせ、「あっていい違い」と「あってはいけない違い」に気づかせる。
<p>2 意見がまとまらなかった「違い」について考える。</p> <p style="text-align: center;">意見がまとまらなかった「ちがい」について話し合しましょう。</p> <p>【食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はしやフォークなどを使うべきだ。 ・手で食べると手が汚れてしまう。 	
<p>3 身の回りの「違い」について考える。</p> <p style="text-align: center;">身の回りには、どんな「ちがい」があるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女 ・性格 ・仕事 ・肌の色 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の一人一人に目を向け、個性の多様性を認め、尊重し合おうとする態度を身につけさせる。

5 参考

- 各事例のねらい
 - ・ 事例① 国による文化や習慣の違いによっておこる「違い」を知らせ、自分にとって「当たり前」のことも、相手にとっては「当たり前ではない」ことに気づく。
 - ・ 事例② 家庭での役割を考える時に、固定的な性別役割分担にとらわれず、互いを尊重し合い、責任を分かち合う姿をめざす。
 - ・ 事例③ 自分の将来の夢を描く時に、一人一人の個性と能力を十分に発揮できるように、進路や職業の選択について考える。
 - ・ 事例④ 身近な地域での異年齢交流、障害のある人や様々な立場の人との交流において、互いを配慮した上で役割を考えていくことの大切さに気づく。

No.	3	分類	2-(2)-ア	資料名	だいこんとにんじん	学年	3年	領域	道徳	2-(3)
-----	---	----	---------	-----	-----------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- みかけや言動にとらわれず、個性や違いを認め合い、尊重し合っているのまを受け入れようとする態度を身につける。

2 趣旨

- 個性や能力は、一人一人違いがあり多様である。外見上の違いによって、笑ったり、ばかにしたりすることが相手の心を傷つけ人権を侵害する行為であることを理解させたい。
- 日常の学級において個々のよさや違いが認められ、尊重される学級の風土を培っていくことが大切である。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 「だいこん」と「にんじん」の特徴について考える。	・だいこんとにんじんの違いについて考えさせることにより、他の人とは違うところや自分らしさ等の特徴があることに気づかせる。
2 「だいこん」が「にんじん」を笑った時の気持ちについて話し合う。	
「だいこん」は、どんな気持ちで「にんじん」をわらったのでしょうか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・小さいな。 ・ちょこちょこ動き回っているな。 ・顔が赤いから酔っぱらっているみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だいこんとにんじんになってロールプレイをし、だいこんの心情に迫らせる。 ・色や形が違うことから、外見や特徴に対しておかしいと思っていることに気づかせる。
3 「だいこん」が「にんじん」に笑われた時の気持ちについて話し合う。	
「だいこん」が「にんじん」に笑われた時、どんな気持ちだったのでしょうか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・早く帰りたいよ。 ・ばかにするな。 ・「にんじん」も、こんな嫌な気持ちだったのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑った時と笑われた時の気持ちの違いに着目させ、自分たちが笑った時、にんじんがどんなにいやな思いをしていたかを考えさせる。
4 日常生活を振り返り、自分の在り方について考える。	
身の周りの人とどのようにすごしていきたいですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校で ・家庭で ・地域で 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭、地域など、さまざまな場面をイメージさせ、具体的な自分の生き方や在り方に迫らせたい。

No	4	分類	3-(1)-イ	資料名	まほうのかがみ	学年	3年	領域	特別活動(学級活動)
----	---	----	---------	-----	---------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 自分を見つめ直し、他者と違った特徴をもっていることに気づき、ありのままの自分を受容し、高めていこうとする。

2 趣旨

- 自己を見つめ直し、様々な自分を発表し合うことで、個性や願いの違いに気づき、自己理解を深めることができる。
- 「現在のわたし」や、「将来のわたし」について考えることで、いっそう自分を高めていこうとする態度を養うことができる。

3 活動計画 全2時間

- (1) 第1次…現在の自分を見つめ、自己理解を深める。
- (2) 第2次…未来の自分の姿を思い描き、自分を高めようとする。

4 展開例【第1次】

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 鏡に映った「わたし」について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">かがみにうつった「わたし」について、書いてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自慢できること ・得意なこと ・努力していること ・一番のよい思い出 ・幸せなとき ・将来の夢 ・自分の好きなどころ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーに配慮しつつ、多様な観点を示すことによって、より内面が見つめられるように考えさせる。
2 鏡に映った「わたし」について共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">どんな「わたし」が、かがみにうつりましたか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に運動場で遊んでいるわたし ・おいしそうに給食を食べているわたし 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよさに着目し、個性や多様性についての理解を深めさせる。
3 自分のよさを見つめ直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの多様なよさを共有し、新たな自分のよさに気づかせる。

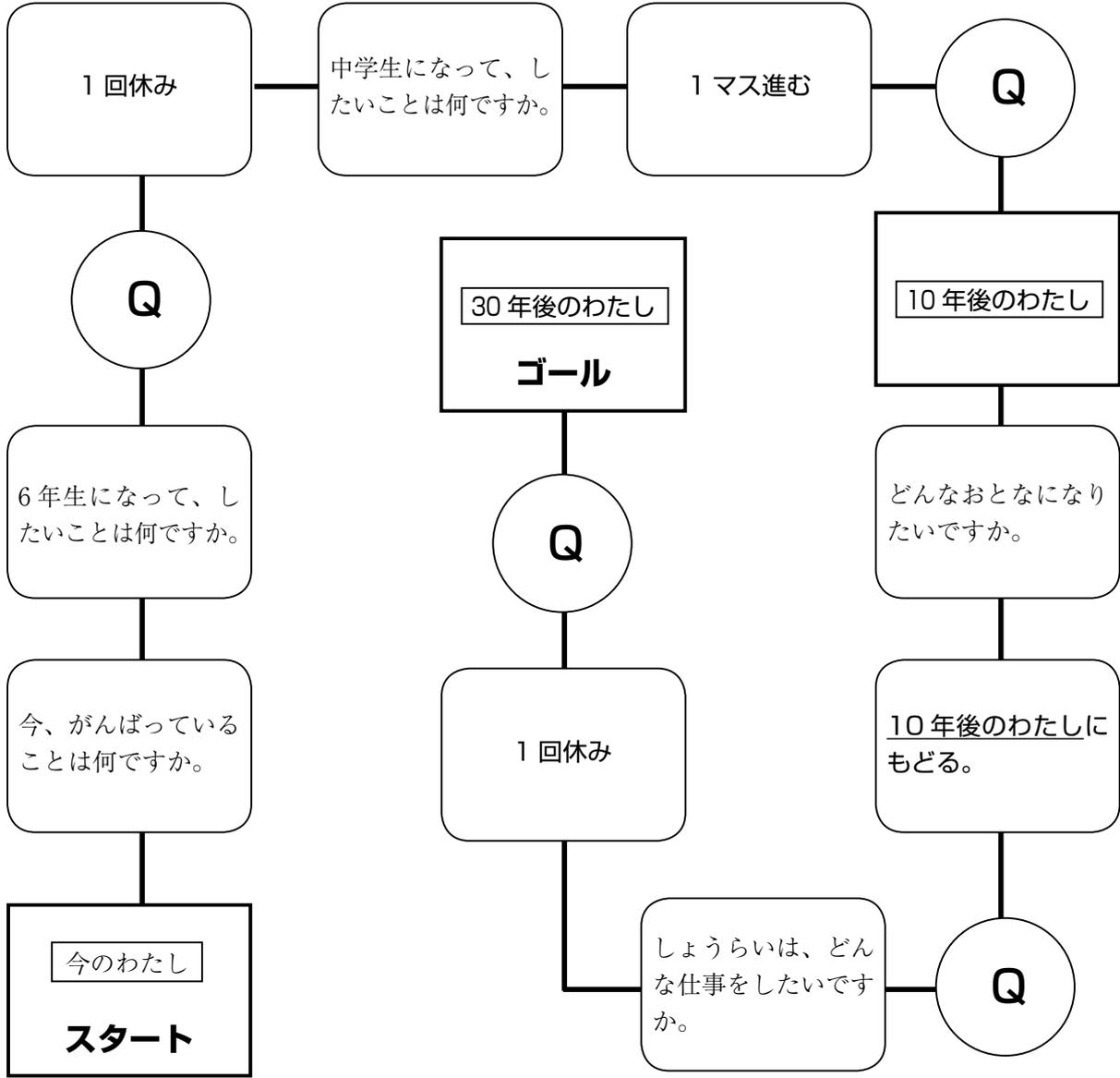
【第2次】

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 10年後の自分の姿を想像し、自分の生き方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">なりたい自分に近づくために、どんな努力をしていきたいですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強を頑張る。 ・野球を頑張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標や努力を書くことにより、今の自分の生活を意識させる。
2 班で自分の「努力したいこと」を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">友だちの努力したいことを聞き、おうえんやアドバイスをしよう。</div>	
3 10年後、30年後の「わたし」にメッセージを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちから応援や励ましをもらい、目標に向かって頑張ろうとする意欲をもたせる。

※第2次では、p 37「しょうらいの自分について考えよう！」を活用することができる。また、第4学年で「2分の1成人式」を行う場合においても、活用することが可能である。

しょうらいの自分について考えよう！

- ルール
- ① 1グループ3～4人
 - ② サイコロで(1・3・5)が出たら1マス、(2・4・6)が出たら2マス進もう。
(サイコロがない場合は、「じゃんけんかで勝せんったら1コマすす進む」などのルールを決めよう。)
 - ③ **Q**のマスに止まった人は、左どなりの人にしょうらいについてしつ問をしよう。
 <こんなしつ問ができるよ>
 - ・「10年後のわたしむ」に向けて、がんばっていることは何ですか？」
 - ・「中学校では、どんな部活動ぶどうに入りたいですか？」など



No	5	分類	2-(1)-ア	資料名	がんばれ いのち	学年	3年	領域	総合的な学習の時間
----	---	----	---------	-----	----------	----	----	----	-----------

1 ねらい

- 生命の多様性や連続性、生命の不思議等に基づき、興味・関心をもって生命あるものに大切に関わろうとする。

2 趣 旨

- 人権意識の基盤である「生命を大切にできる心」を育成するため、生きているものすべてに対する生命尊重の精神を養いたい。
- 生命誕生の様子から、生命の不思議やかけがえのない自分を感じとらせ、生命について自ら考えたり、調べようとする意欲を起こさせたい。
- 生まれようとする動物の赤ちゃんや親の思いを言葉に表現させる活動等を通して、小さな生命がもつ「生きようとする力」や親の願いを感じ取らせたい。

3 配慮事項

- 胎児の写真については、自分も母親の胎内で同じように育ったことを知らせ親近感をもち、必要に応じて母体とのつながりや発育過程など補足説明を加え、奇異なものとして受け止めることのないように心がけたい。
- 第2学年の生活科、第3学年の環境体験学習や第5学年の理科等と関連づけ、系統立てた生命の教育に取り組みたい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 小さな「いのち」の3枚の写真を見て話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">小さな「いのち」のふしぎやちがいをを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミズダコの赤ちゃんはたくさん生まれるんだな。 ・ カキの種って葉っぱの赤ちゃんみたい。 ・ ウスカワマイマイの赤ちゃんってどれくらいの大きさだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気づいたことや不思議に思ったことを中心に話し合い、生命の多様性や連続性等に気づかせ、生命への興味関心をもたせる。 ・ 胎児とお母さんとの深いつながりに着目し、自分がかけがえのない存在であることを感じ取らせる。 ・ 指導者の親としての体験談やイメージを話すことにより、生命の誕生や成長を願う親の気持ちに気づかせる。
<p>2 ヒトの赤ちゃんについて話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">ヒトの赤ちゃんのふしぎを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 息はできるのかな。 ・ 目は見えるのかな。 ・ おしっこやウンチはするのかな。 	
<p>3 お母さんになって、赤ちゃんへのメッセージを書く。</p>	
<p>4 「いのち」の大切さについて考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black;">「いのち」について考えをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故に遭わないようにする。 ・ 生き物の世話をしっかりする。 ・ 命の大切さを低学年に教える。 	

No	6	分類	3-(2)-ア	資料名	で・き・た	学年	3年	領域	道徳	1-(3)
----	---	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 正しいと思うことは、勇気を出して実行しようとする。

2 趣旨

- 友だちの誤りを注意することは、勇気があることである。正しいと思うことを勇気を出して行おうとする態度は、市民社会の一員として大切な資質である。
- 正しいこととわかっていても注意できなかったが、母親の助言もあって、何とか勇気をもって注意できた「さくらさん」の喜びを感じ取らせたい。さらに、注意することが相手への真の思いやりであり、ルールや規則に基づいた好ましい人間関係や集団づくりにつながることを理解させたい。
- 規範意識は、ともに生活する人と人との間にある人権尊重のための社会のルールを守ろうとする意識である。この視点を基盤にした学習展開としたい。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 注意できなかった「さくらさん」の気持ちについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友だちに注意できなかった時、「さくらさん」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して注意したい。 ・注意して言い返されたら嫌だな。 ・注意して気まづくなったら嫌だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらさんが遠くから友だちを見ている挿絵から、注意できない気持ちに迫らせる。 ・自分の体験から、人の誤りを指摘することは、相手のためになることに気づかせる。
<p>2 「さくらさん」が、お母さんに「で・き・た」とささやいた時の気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">耳もとで「で・き・た」とささやいた時、「さくらさん」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して注意することができてうれしかった。 ・お母さんに励まされたので頑張れた。 ・注意したら靴に履きかえてくれてホッとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんに相談し励まされてから一週間が経過することから、注意できるまでのさくらさんの心の葛藤に気づかせる。 ・母親の背に飛びつく様子から、さくらさんの喜びを読みとらせる。
<p>3 友だちの誤りに気づいて注意することの意義について話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「さくらさん」は、なぜ友だちのあやまりを注意したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ってもらいたいから。 ・間違いを分かってもらいたいから。 ・友だちの誤りを正したいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの誤りを注意することは、その誤りを正し、相手への思いやりや好ましい人間関係づくりにつながることに気づかせる。
<p>4 日常生活を振り返り、自分への応援メッセージを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の誤りに気づき注意できなかった経験を想起させることにより、正しいと思ったことは勇気を出して行おうとする意欲をもたせる。

No	7	分類	3-(1)-ア	資料名	やくそくげんまん	学年	3年	領域	特別活動（学級活動）
----	---	----	---------	-----	----------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 人の言動に引きずられず、自分が正しいと考えたことに従って行動することの大切さに気づかせ、よりよい仲間集団をつくろうとする。

2 趣旨

- 仲良しの友だちと「いっしょ」というのは、うれしいことであり心強いことでもある。しかし、その仲間意識が、時には他者を排除したり、自分の意見を言い出しにくい人間関係をつくってしまったりすることがある。他人の言動に左右されず、自分の考えで行動できる人間関係づくりが大切である。
- 母親の問いかけによって、友だちを排除するという約束を安易にしてしまった自分の行動を振り返り、友だちと仲良くするということの真の意味を考えさせる契機とする。
- 資料と同様の人間関係を経験している児童は多い。友だちの言動に引きずられて合わせてしまうことは自分の生き方を狭くしてしまうとともに、よりよい人間関係づくりを阻むことにつながることを日常生活の経験を振り返らせながら考えさせる。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 帰り道での「えりちゃん」の気持ちについて考える。</p> <p>「うん、べつにいいよ」と答えた時、「えりちゃん」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の係の方がいいな。 ・別にいいかな。 <p>やくそくげんまんをした時、「えりちゃん」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人で仲よく帰れて楽しい。 ・仲のよい友だちができてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いとは違う返事をしたえりちゃんの気持ちを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・えりちゃんを楽しそうにしている様子から、他の友だちと遊ばないという約束について、気にしていないことに気づかせる。
<p>2 お母さんに問いかけられた「えりちゃん」の気持ちについて考える。</p> <p>「ほかの子とはもうあそべへんの」と言われた時、「えりちゃん」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えっ、どうしよう。 ・本当に他の子と遊べないのかな。 ・とんでもない約束をしてしまったな。 ・明日、あいちゃんに約束できないことを言おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしをじっとみつめた」に着目させ、自分の過ちに気づくえりちゃんの心境を考えさせる。 ・互いの過ちに気づいて注意し合うことの是非について考えさせることにより、よりよい人間関係づくりにつながることに気づかせる。
<p>3 「よりよい学級づくりの目標」を考える。</p> <p>よりよい学級にするための学級目標を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守らない人がいたら注意をする。 ・友だちと仲よくし、いじめをしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級を高めていく目標を考えさせることにより、よりよい仲間集団づくりにつなげる。

No	8	分類	3-(2)-ア	資料名	土のふえ	学年	3年	領域	国語
----	---	----	---------	-----	------	----	----	----	----

1 ねらい

- 平和な社会をつくるためには、相互理解を深めることが大切であることを読み取る。
- 外見の違いや噂、言い伝え等に起因する偏見についての愚かさ気づく。

2 趣旨

- 情報化社会において、噂や風評などにとらわれた行動によるトラブルも少なくない。先入観なく相手の本質をしっかりと見極めた対応が大切であることを理解させる。
- 一人一人が、どのように考え行動することが平和な世界につながるのかを考えさせる。

3 指導計画 全2時間

- (1) 第1次…戦場での兵隊の心情を読み取り、戦争の愚かさや恐ろしさを考える。
- (2) 第2次…戦争が終わったわけを考え、先入観の怖さやコミュニケーションの大切さを知る。

4 展開例【第1次】

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 いくさを始めたわけを読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">なぜ、いくさを始めたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに恐ろしい人間が住んでいると思ったから。 ・一度も仲よくなったことがないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接会ったこともない相手を恐れて、いくさになったことを読み取らせ、見かけや思い込みだけで相手を判断することの愚かさ気づかせる。
2 戦場での兵隊たちの気持ちを読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">冬の間、「ざんごう」ですごすへいたたちの気持ちを考えましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・故郷が懐かしい。 ・早く春がこないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塹壕で冬を過ごす兵隊の気持ちを考えさせ、兵隊のいくさへの複雑な気持ちに気づかせる。

【第2次】

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 敵の様子を探る兵隊の気持ちを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手に気づかれたらどうしよう。 ・見つかってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敵の様子を探りに行く危険な任務について、兵隊の緊迫した様子を感じ取らせる。
2 仲直りできた理由を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">なぜ、北の国と南の国はなかなかおりができたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・笛で呼び合ったから。 ・お互いを理解することができたから。 ・相手が怖い人でないと分かったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笛で呼び合うことでお互いの心が通じ合ったことから、平和な世界を築くためには、お互いを理解し合おうとする気持ちが大切であることに気づかせる。
3 先入観や思い込みで行動してしまった経験について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・友だち ・家族 ・地域の人 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・誤解から生じたトラブルの経験から、相手のことをしっかりと理解しようとする意欲をもたせる。

No.	9	分類	3-(1)-ア	資料名	ありがとう	学年	3年	領域	道徳	2-(2)
-----	---	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 高齢者や困っている人に対して思いやりのある行動ができ、進んで人の役に立つことに取り組もうとする。

2 趣旨

- 日常生活の中で、人の役に立つことができたという喜びを実感することは、自己有用感につながり、他者への想像力や社会参加への意欲を高めることができる。
- おばあさんになかなか席をゆずることができない「ぼく」が、やっと言うことができた喜びが描かれている。席を譲るまでの心の変化や、「ありがとう」と言われた時の心の動きは、生活体験上から想像できると考えられる。
- 「ぼく」の心の動きを丁寧に追い、かけ出したくなった「ぼく」の様子から、人の役に立てた喜びを感じ取らせる。

3 配慮事項

- 「バスや電車などの車内では、必ず席をゆずりなさい」といった価値や規範意識の押しつけにならないように配慮する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 席を譲りたいけど言い出せない「ぼく」の気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「ぼく」は、せきをゆずりたいのになぜ言い出せなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習で疲れていたから。 ・誰かが席を譲ると思ったから。 ・ちょっと恥ずかしかったから。 ・言い出す勇気がなかったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車内でおばあさんを常に意識しているぼくの様子から、「おばあさん、どうぞ」と言って席を譲るまでの心の変化に気づかせる。
<p>2 「ありがとう」と言われた時の「ぼくの」気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おばあさんに「ありがとう」と言われた時、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんの役に立ててよかった。 ・勇気を出して声をかけてよかった。 ・「ぼく」もうれしい気分になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・席を譲るまでの心の変化から、勇気を出して声をかけたことに気づかせる。 ・自分の席を譲るという行為が、人の役に立つことができたという喜びにつながったことを理解させる。
<p>3 これからの自分の生き方や在り方について考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あなたなら、どんな場面で人の役に立つことができるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強でわからない友だちに教える。 ・友だちの相談にのる。 ・重たい物を運ぶ時に手伝う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において自分ができることを考え、人の役に立とうとする意欲から実践につなげるとともに、自己有用感を高めさせる。

No	10	分類	3-(2)-イ	資料名	町のたから	学年	3・4年	領域	道徳	4-(5)
----	----	----	---------	-----	-------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 地域の施設や文化などには、先人の思いがこめられていることを知り、それを守ろうとする意欲をもつとともに、地域活動やボランティア活動に積極的に参加しようとする。

2 趣旨

- 近年、ボランティアや地域活動に対する関心が高まっている。共生の心を育むためには、身近な人との出会いを通して自分の地域やそこに住む人々に関心をもち、社会参加への意欲を高めていく必要がある。
- 地域の公園を「町のたから」と言うおじいさんとの出会いから、身近な地域活動に積極的に関わろうとする「わたし」の変化を描いている。心情の変化とともに、具体的な行動にまで発展していることに注目させる。
- 自分たちの住む「地域自慢」になるような施設・文化・産業等について、発展的に学習させることも可能である。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 おじいさんへの「わたし」の気持ちを考える。</p> <p>公園の草を引いているおじいさんを見かけた時、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までおじいさんはどうしていたのかな。 ・疲れた様子だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんを見かけてかけ寄ったことから、おじいさんのことを心配している気持ちに気づかせる。
<p>おじいさんから「公園は町のたからなんだ」と聞いた時、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園をつくってくれたから、私たちは楽しく遊べる。 ・公園を「町のたから」と思って大切にしてくれてありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園を「町のたから」と言うおじいさんの思いにふれ、わたしの公園に対する思いが変化していることを捉えさせる。
<p>2 友だちと一緒に公園の掃除をするようになった「わたし」の気持ちを考える。</p> <p>「わたし」は、なぜ公園のそうじをするようになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんへの感謝の気持ちから。 ・おじいさんの思いを引き継ぎたいから。 ・わたしも人の役に立ちたいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんとの出会いを通して、自分自身を見つめ直し、具体的に行動を起こしているわたしの姿に共感させる。
<p>3 ボランティア等の経験を振り返る。</p> <p>ボランティアや地いき活動に参加した時、あなたはどんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立ててうれしかった。 ・いろんな人と触れ合って楽しかった。 ・また次回も参加したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等に次回も参加したいと思った理由を発表させ、その意義を理解させ、今後も積極的に取り組もうとする意欲につなげる。

No	11	分類	2-(2)-ア	資料名	島ひきおに	学年	3・4年	領域	国語
----	----	----	---------	-----	-------	----	------	----	----

1 ねらい

- さし絵を手がかりに、場面を比べながら文章を読み取り、登場人物の気持ちを想像することができるようにする。
- 先入観をもって判断することの誤りに気づく。

2 趣旨

- 外見にとらわれ先入観をもつことは、本質を見失い偏見や差別につながる恐れがある。
- やさしい気持ちの持ち主であるおにを疎外する漁師や村人の姿を通して、外見や先入観で判断することの誤りに気づき、本質を見つめていくことの大切さを考える資料である。
- 長文であるが、さし絵を手がかりに、場面ごとのおにの様子や、漁師や村人がおにの気持ちを聞かず疎外しようとする姿を丁寧に読み取らせる。

3 指導計画 全3時間

- (1) 第1次…場面の移り変わりを考えながら読み取り、心に残ったことを話し合う。
- (2) 第2次…おにの気持ちを読み取る。(本時)
- (3) 第3次…おにの気持ちを理解しようとせず、追い出した村人について感想や意見をもつ。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 前時の学習を思い出しながら、「おに」の気持ちについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ひとりぼっちの「おに」は、いつもどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ぼっちで寂しい。 ・誰かと遊びたい。 ・一緒に暮らしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おにの「あそんでいけ」などの言葉に着目させ、おにの寂しい心境や、誰かと一緒に遊びたいという純粋な願いを感じ取らせる。
<p>2 自分の思いを分かってもらえない「おに」の気持ちについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の思いが伝わらない「おに」は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして一緒に暮らせないのかな。 ・ぼくは人を食べたりしない。 ・どうしてぼくを怖がったりするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師や村人から疎外されても一緒に暮らしてくれる人を探そうとするおにの姿から、諦めずに相手に思いを伝えようとする気持ちに共感させる。
<p>3 「おに」の思いが受け入れられない理由について考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「おに」の気持ちが、なぜ漁師や村人たちに受け入れられないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師たちがおにの話を知ろうとしない。 ・おには怖いものだと思いつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村人が先入観でおにを判断し、おにの話を知ろうとしないことに気づかせる。
<p>4 相手の思いを理解するための方法について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いがうまく伝わらなかった経験を想起させることにより、どうしたら自分の気持ちが伝わるかを考えさせる。

No.	12	分類	3-(2)-イ	資料名	半分のおにぎり	学年	3・4年	領域	道徳	2-(3)
-----	----	----	---------	-----	---------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 困難な状況の中でも、助け合い支え合うことの大切さに気づき、自ら進んで行動しようとする。

2 趣旨

- 阪神・淡路大震災の体験を通して、人と人とのふれあいや助け合うことの大切さを再認識し、自分と他者とを豊かにつなぐ思いやりの心を育てることが大切である。
- 阪神・淡路大震災によって多くのものを失った「わたし」が、避難所生活で、これまで意識しなかった家族や友だちのありがたさや協力し励まし合って生きることの大切さに気づいていく内容である。
- 「たくさんのたからもの」とは何かを考えることで、互いに思いやり、助け合うことの大切さに気づくとともに、困難な課題を克服しようとする態度を育てる。

3 配慮事項

- 地震や水害等による心のケアが必要な児童がいる場合には、十分に配慮する。
- 防災教育副読本『明日に生きる』を用いて、震災の被害の状況等について理解を深めておきたい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 阪神・淡路大震災の被災地の様子を知る。	・防災教育副読本『明日に生きる』等を活用し、震災当時における被災地の様子を知らせる。
2 おにぎりを半分もらった時の「わたし」の気持ちを考える。 おにぎりを食べた「わたし」は、どんな気持ちだったのでしょうか。	・これまでで一番おいしかった。 ・お腹がすいていたのでうれしかった。
3 おにぎりを半分、分けてくれた男の子の気持ちを考える。 男の子は、なぜおにぎりを分けてくれたのでしょうか。	・人の善意や真心をうれしく思い、一番おいしいと感じているわたしの気持ちに気づかせる。
4 「わたし」が気づいた宝物について考える。 「わたし」が見つけた「たくさんのたからもの」とは、何だったのでしょうか。	・男の子も空腹であったにもかかわらずおにぎりを分けてくれたことから、助け合うことの大切さに気づかせる。
5 4で考えた宝物で、自分が大切にしていきたいもの考える。 あなたは、どんなことを大切にしていきたいと思いますか。	・ともに助け合い、協力することの大切さに気づかせるだけでなく、主体的に取り組もうとしている子どもの姿に共感させる。
・助け合い ・思いやり ・やさしさ ・家族 ・進んで行動すること	・助け合いや思いやりの心を大切にするなど、自らも進んで行動しようとする意欲や態度につなげる。

No	13	分類	3-(2)-ア	資料名	こんばんは	学年	3・4年	領域	特別活動（学級活動）
----	----	----	---------	-----	-------	----	------	----	------------

1 ねらい

- 「手話」に興味をもつとともに、様々なコミュニケーション手段があることを知り、それらを活用して豊かな人間関係を築こうとする。

2 趣旨

- 違いを認め受容する態度を養い、共生の心を育成することが必要である。
- 指導にあたっては、手話を体験することで人とつながる楽しさを味わわせる。また、水中トーク等の挿絵から、様々なコミュニケーションの方法があることに関心をもたせる。

3 配慮事項

- 地域の手話サークル等との交流など、「総合的な学習の時間」の導入にも活用することができる。
- 手話を特別なものとしてではなく、言語と同様のコミュニケーション手段の一つとして捉えさせる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 「こんにちは」と手話で挨拶し、手話について知っていることを話し合う。	・手話の経験等を想起させ、資料への興味づけを図る。
2 お母さんから手話教室に誘われた時の「健一」の気持ちを考える。 お母さんから手話教室にさそわれた時、「健一」はどんな気持ちだったのでしょうか。	
・手話を覚えても得なことはない。 ・面白くない。	・「とくなことなんかないし」の言葉から、日常生活で手話の必要性を感じていないことに気づかせる。
3 手話教室で、「健一」が自分から手話を学ぼうとした理由を考える。 「健一」は、なぜ自分から手話を学ぼうとしたのでしょうか。	
・みんなが楽しそうだったから。 ・手話が伝わってうれしかったから。 ・手話に興味をもち始めたから。	
4 様々なコミュニケーションを体験する。 ・手話・筆談・水中トークでの手信号（※）	・体験を通して、コミュニケーションの意義を考えさせ、人とつながる楽しさを味わわせる。
5 人と人とのつながりを大切に自分の生き方や在り方について考える。	・人とコミュニケーションをとることの楽しさから、様々な人と交流し、豊かな人間関係を築こうとする意欲をもたせる。

5 参考

- ※ 「手信号」（ハンドシグナル）は、簡単な意思の伝達に使う。「手のひらを広げて相手に向ける」はストップ、待ってください。「手をグーにして、危険なものに向ける」は危険、危ないを意味している。

No	14	分類	3-(1)-イ	資料名	だいじょうぶ	学年	4年	領域	道徳	2-(3)
----	----	----	---------	-----	--------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 障害のある友だちのよさや思いを受け止め、仲間のなかで自分を高めていこうとする態度を身につける。

2 趣旨

- 一人一人の「その人らしさ」を受容し、お互いの個性を尊重し合う態度を育むことは、共生社会を実現していくための重要な基礎を築くものである。
- プールに飛び込んだ友だちのことをおぼれていると心配する「あっ君」と、その優しさに応える友だちの姿を通して、「あっ君」のことを周囲がどのように受け止めているのか考えさせる。
- 「あっ君」と友だちの温かいふれあいの様子から、共に学び、共に伸びることの大切さに気づかせる。

3 配慮事項

- 学級に障害のある児童が在籍している場合、障害の状況や保護者の気持ち、学級の実態などを十分把握し、連携を保ちながら指導することが必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 「あっ君」の様子を捉える。</p> <p style="text-align: center;">「あっ君」は、どんな子ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生のほっぺを両手で挟んだりなでたりする。 ・プールでバタ足やわに歩きをする。 ・水が顔にかかるのを嫌がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あっ君の友だちと関わる様子や行動から、あっ君の人柄やプールでの様子について捉えさせる。
<p>2 「助けて」とさげふ「あっ君」に対するみんなの気持ちについて考える。</p> <p style="text-align: center;">「助けて」とさげふ「あっ君」のことを、クラスみんなはどのように思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あれはおぼれているんじゃないよ。 ・大丈夫だよ。 ・心配なくていいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とし君がおぼれていると思い込んで心配するあっ君とその優しさに応えようとする友だちの様子から、学級の友だちがどう受け止めているのかを考えさせる。
<p>3 「あっ君」のことをうれしく思うとし君の気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">とし君は、「あっ君」にどんな言葉をかけたいと思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのことを心配してくれてありがとう。 ・あっ君は本当に優しいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配してもらったとし君の立場になって、あっ君に対する気持ちを表現させる。
<p>4 「あっ君」との接し方について考える。</p> <p style="text-align: center;">あなたなら、「あっ君」とどのように接していきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あっ君の気持ちが分かるようになりたい。 ・あっ君が優しくしてくれるように、あっ君にも優しくしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あっ君の学級の一員になったつもりで、あっ君とどのように接したらよいかを考えさせる。 ・学級の一員として考えさせることにより、お互いを尊重し、助け合える人間関係づくりにつなげる。

No	15	分類	3-(1)-ア	資料名	おい、わたしの口	学年	4年	領域	道徳	1-(4)
----	----	----	---------	-----	----------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 自分の欠点や過ちを素直に認め、意欲的に自分から変わろうとする。

2 趣旨

- よりよい人間関係を築いていくために、他者に対する自分の言動を振り返り、改めようとすることは大切である。また、同時に相手に自分の思いや気持ちを伝えるための表現方法を身につけることも必要である。
- 学校で友だちと言い合いになってしまったことを後悔している「わたし」が、ゆうちゃんと仲直りできたことをきっかけに、みっちゃんとも仲直りしようとする姿を描いている。友だちとの関係を修復していく過程での「わたし」の心の変化は、共感的に理解しやすいものである。

3 配慮事項

- 自分の欠点ばかりに目が向き、自尊感情を損なうことがないように配慮したい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 「わたし」の気持ちについて考える。</p> <p>「ごめんね」が言えなかった時、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余計なことを言ってしまった。 ・なぜすぐに謝らなかったんだろう。 <p>ゆうちゃんから「ごめんね」と言われた時、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲直りできてよかった。 ・わたしから、謝るべきなのに。 ・みっちゃんに謝りに行こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あやまろうと思ったけれど」の言葉から、わたしの悪いと思う気持ちや素直に謝れない気持ちに気づかせる。 ・「ごめんね」と言い合う二人が喜びあっている様子から、自分の過ちを素直に認めた「ごめんね」の一言の大切さに共感させる。
<p>2 みっちゃんと仲直りができた時の「わたし」の気持ちを考える。</p> <p>みっちゃんに「ごめんね」が言えた時、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許してもらえるかすごく心配だった。 ・勇気を出して、自分から言ってよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・胸の中でもち続けている「謝りたい」という思いから、勇気を出して自分から謝った心情に迫らせるとともに、仲直りできた安堵感にも共感させる。
<p>3 友だちと話をする時、大切にしたいことを考える。</p> <p>友だちと話をする時、どんなことを大切にしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い方をよく考えて話をしたい。 ・悪いと思ったら、素直に謝りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直に過ちを認め、謝ることが大切であることから、コミュニケーションを通して、よりよい人間関係を築こうとする意欲をもたせる。

No	16	分類	2-(2)-イ	資料名	うしろの正面、だ～あれ	学年	4年	領域	特別活動（学級活動）
----	----	----	---------	-----	-------------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 障害のある人の気持ちに気づき、支援の仕方を考え、助け合い共に生きようとする実践的な態度を身につける。

2 趣旨

- 障害のある人の気持ちを理解するとともに、同じ社会に生きる一員として、共に助け合い、支え合おうとする意欲とそのスキルを養うことが大切である。
- 車いすを利用する人の考えを聞かずに自分たちだけで話し合っていることに気づかせ、障害のある人の立場から、自分にできることを考えていくことが大切であることを理解させる。
- 「うしろの正面、だ～あれ」は、車いすを利用する人の気持ちに沿うことの大切さを示唆する言葉であるとともに、一人一人に「あなたなら、どうする」と問いかけているものである。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 車いすを利用している人の気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">車いすを利用している人は、どんな気持ちなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段が上がれない。 ・できることは自分でしたい。 ・困った時に助けてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを利用する人の目線で身の回りを見ることにより、日常生活で不便な思いを感じる場面を考えさせる。
<p>2 登場人物一人一人の意見について考える。</p> <p style="text-align: center;">あなたは、どの子の意見にさん成・反対ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボクの意見に賛成…みんなで車いすをかついで上ればいい。 ・トシちゃんに賛成…学習塾に遅れるわけにはいかないから仕方がない。 ・ゴンちゃんに反対…恥ずかしいと思う以上に車いすの人は困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを通して、それぞれの友だちの意見を自分の立場に置き換えて考えさせ、困っている人を見て手助けしたいと発言したボクの行為に共感させる。 ・賛成や反対の理由を考えさせることにより、自分たちにもできる支援の方法について気づかせる。
<p>3 「ボク」が口ごもっている理由を考える。</p> <p style="text-align: center;">「ボク」は、なぜ口ごもってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、みんな自分勝手なのかな。 ・「手助けしよう」とみんなに言いにくいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手助けしたいという思いがあっても、みんなが協力的でないという行動に繋がりにくいことに気づかせる。
<p>4 自分にできることを考える。</p> <p style="text-align: center;">階段が上がれないでこまっている人がいる時、あなたならどうすることができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず声をかける。 ・大人に手伝ってもらって、自分も手伝う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちになって考えたり、安全面に配慮する等の必要があることを確認させ、自分にできることを考えさせる。

No	17	分類	3-(1)-イ	資料名	ぼくの三年とうげ	学年	4年	領域	特別活動(学級活動)
----	----	----	---------	-----	----------	----	----	----	------------

1 ねらい

- 自分でやろうと決めたことに粘り強く取り組んだり、新しいことに挑戦したりしながら、自分の能力を伸ばそうとする。

2 趣旨

- 児童の中には友だちと比べたり、周りを気にして自分の考えを出そうとしない面がある。しかし、「こんなことをやってみたい」「苦手なことにチャレンジしてみたい」という気持ちをもってしている児童は多い。自己実現に向けて努力していくことは、大切なことであることに気づかせる。
- 個人の能力や個性を伸長するには、本人のがんばりが大切であるが、周りの仲間の励ましや支えも必要である。自分も友だちも、共に伸びよう、共に高まろうとする意欲を養う。
- 「ぼく」の「おじいさんの役」になりたいという思いや練習中での不安など、「ぼく」の気持ちを理解し、努力を継続することの大切さや仲間がいることの素晴らしさについて考えさせる。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 おじいさん役を選んだ理由を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「ぼく」は、どんな気持ちで「おじいさん役をやります」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さとし君みたいに上手に主人公を演じることができたらいいな。 ・ 一度やってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ さとし君を見て、主人公をやってみたいという思いをもち続け、勇気を出して席を立ったぼくの気持ちに共感させる。
<p>2 「ぼく」の学習発表会に向けての気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">家や学校で、「ぼく」はどんな気持ちで練習していたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶対、上手くできるようにしたい。 ・ 当日、成功させるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の練習に様々な人々が関わっていることから、周りの人の温かい励ましと支えがあったことや、粘り強く努力したぼくのがんばりに気づかせる。
<p>3 発表会当日の「ぼく」の気持ちについて考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発表会の日、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓がドッキンドッキンするほど緊張している。 ・ この場から逃げ出したい。 ・ みんなの応援に応えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手なことを克服したり、みんなの応援に応えようとするぼくの気持ちを理解し、新しいことに挑戦し、自分を高めようとする姿勢に気づかせる。
<p>4 自分が目標に向かってがんばっていることを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標をもって取り組んでいる発表を聞き、自分も粘り強く頑張ろうとしたり、人の頑張りを応援したりしようとする意欲や態度を身につけさせる。

No	18	分類	2-(2)-ア	資料名	いっつもそうや	学年	4年	領域	道徳	2-(3)
----	----	----	---------	-----	---------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 偏見や思いちがいから、固定的な見方や決めつけをすることの誤りに気づき、不合理を見抜く主体的な態度を身につける。

2 趣旨

- 決めつけや偏見で相手を見ずに、個性やよさを認めようとする態度を育てていくことは、互いを正しく知ることにつながり、ひいてははじめや差別のない学級づくりにつながる。
- 「モズのはやにえ」(※)をみんなに教えてあげようとする「ようこちゃん」の気持ちを理解させ、一方的に自分の偏見をぶつけていくふみくんの誤りに気づかせる。そして、ふみくに屈せず、自分の意見を言い切る「ようこちゃん」や正しいことを主張し、彼女を擁護する友だちの姿を通して、偏見を見ぬき、それを正そうとする態度を養う。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 バッタのくしざしをみんなに見せようとした「ようこちゃん」の気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ようこちゃん」は、なぜ「バッタのくしざし」を学校に持ってきたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のみみんなに見せようと思ったから。 ・みんなも驚くだろうと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バッタのくしざしを見たひろみちゃんの驚きから、学校のみみんなにも教えてあげようとしたようこちゃんの気持ちに気づかせる。
<p>2 ふみくんの言動に対する「ようこちゃん」の気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ようこちゃん」は、ふみくんに対してどんな気持ちになっているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしのことを信じてくれない。 ・何かあるといつもわたしを悪く言う。 ・いっつもそうや。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からふみくんがようこちゃんに対する偏見をもっていることから、ようこちゃんがつらい気持ちになっていることを捉えさせる。
<p>3 周りの子の言動から、「ようこちゃん」の気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まいこさんたちの言葉を聞いて、「ようこちゃん」はどんな気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの気持ちを分かってくれている。 ・わたしの力になってくれてありがとう。 ・ふみくんにはっきり「ちがう」と言おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを理解してくれる友だちの存在が心強く、自分の意見を言い切ることができたようこちゃんの姿に共感させる。
<p>4 身の回りの課題について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を振り返らせ、身近な人に対して、固定的な見方や決めつけなどがないかを考えさせる。

4 参考

- ※「モズのはやにえ」とは、モズが秋に虫などを捕らえて、餌として木の枝に貫いておくもの。翌春、他の鳥の餌に供されてしまうので「はやにえ」と言う。(広辞苑から)

No	19	分類	3-(1)-ア	資料名	半日村	学年	4年	領域	国語
----	----	----	---------	-----	-----	----	----	----	----

1 ねらい

- 登場人物の心情やその変容を場面の状況と結びつけながら、深く読み取る。
- 身の回りの課題を協同して解決しようとする態度を身につける。

2 趣旨

- 自分たちが住む地域がかかえる課題を甘受せず、仲間とともに協同で解決しようとすることは、地域の発展やよりよい生活をつくっていくうえで大切なことである。
- 日が当たりにくい村の生活を変えるため、山の土を削り取ろうとする「一平」の行動や、仲間の子どもや村の大人の言動の変化を読み取り、力を合わせて課題を解決することの大切さを理解させる。

3 配慮事項

- 山を削り取るという行為については、「一平」の村の状況を十分に把握させ、村人たちが豊かに生きていくための行為であったことをおさえておきたい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 半日村がおかれている状況を読み取る。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">半日村は、どんな村だったのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕方には寒い風がふいてくる。 ・お米のできが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・半日しか陽があたらないから、村の人々の生活環境がたいへん悪いことを理解させる。
<p>2 「一平」の気持ちを読み取る。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「一平」は、なぜ山に登ったのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山を湖に埋めようと思ったから。 ・日が当たる村にしたいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日休まず山に登る一平の行動から、何とか日の当たる村にしたいという思いに気づかせる。
<p>3 村人の言動の変容について考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">村の子どもや大人は、なぜ手伝い始めたのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白そうな気がしたから。 ・子どもたちの頑張る姿を見たから。 ・山を埋めることができそうだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日の当たる村にしたいという一平の強い思いから、課題を解決しようと村人が力を合わせて取り組んでいることを捉えさせる。
<p>4 一日村と呼ばれるようになった村の生活について話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">一日村と呼ばれるようになって、生活はどう変わったのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝から日が当たるようになった。 ・お米がよくとれるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い年月に渡る努力から、地域の発展やよりよい生活を実現させた村人たちの喜びを感じ取らせる。
<p>5 これまでに協力して課題を解決した経験を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を振り返り、人と協力して課題を解決した経験等を共有させることにより、力を合わせて問題を解決しようとする態度を身につけさせる。

No	20	分類	3-(2)-ア	資料名	トウイちゃん came	学年	4年	領域	道徳	4-(6)
----	----	----	---------	-----	-------------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 民族や国籍などの違いを認め合い、人と人とがふれあうことの素晴らしさや楽しさに気づき、進んで交流しようとする。

2 趣旨

- 国際化が進み、外国につながる児童が多く在籍する中で、言葉や文化、生活習慣の違いなどによって偏見や差別がみられることもある。異なる文化や生活習慣、価値観に対する理解を深め、共生の心を育てることが真の国際化には必要である。
- 日本語が十分話せない「トウイちゃん」が、友だちとのふれあいを通して、学級の仲間になっていく様子が生き生きと描かれている。国籍などの違いを越えて、励まし合う仲間の大切さに気づかせる。
- 「トウイちゃん」に心を寄せ、理解し支え合うなかで、心を通わせる喜びを感じさせながら、共に生きようとする意欲と態度を育てる。

3 配慮事項

- 「外国人児童生徒にかかわる教育指針」(平成12年8月 兵庫県教育委員会)の趣旨に沿って指導する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 外国人に出会った時の様子を話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">外国人と出会った経験を発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけられた時、逃げてしまった。 ・言っていることがわからなかった。 ・英語であいさつができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人と出会った時に感じたことを共有させ、民族や国籍、文化などの違いに気づかせる。 ・見知らぬ人たちの中で不安な気持ちになった経験を想起させ、言葉がわからず不安なトウイちゃんの気持ちに共感させる。 ・学級での温かいふれあいを通して、トウイちゃんと学級のみんなの絆が深まり、トウイちゃんに居場所ができたことを理解させる。 ・国籍などの違いを理解し、励まし合う仲間の大切さに気づき、進んで交流しようとする態度を身につけさせる。
<p>2 「トウイ」ちゃんの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">ベトナムから来た「トウイちゃん」は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉がわからないから、不安だった。 ・仲よくなれるか、心配だった。 ・勉強がわかるか、心配だった。 	
<p>3 「トウイちゃん」が、みんなと友だちになれた理由を考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">「トウイちゃん」は、なぜうれしい気持ちになったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながベトナム語で話してくれたから。 ・みんなが優しくしてくれたから。 ・大縄跳びを一緒に練習したから。 	
<p>4 自分の学級に外国人の転校生が来たらどのように接するかを考える。</p>	

No	21	分類	2-(1)-イ	資料名	ほほえみタウン	学年	3・4年	領域	特別活動（学級活動）
----	----	----	---------	-----	---------	----	------	----	------------

1 ねらい

- 自分と身近な人・自然・社会等の様々な関わりを考えることを通して、人権尊重の社会づくりをめざす意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 本資料は、共生・福祉・環境・情報等の観点から、人権尊重の社会づくりにつながる様々な要素を描きこんでいる。
- 「ほほえみタウン」の人々が、どんな過ごし方や生活をしているのか、子どもの視点で気づいたことを幅広く語り合わせる中で、身近な生活や社会における諸課題を見つめる目を育てる。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 まちの人たちはどんな過ごし方をしているかを考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">このまちの人たちは、どんなすごし方をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい ・お出かけ ・スポーツ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけたまちの人の過ごし方から、高齢者、障害のある人、外国人等、様々な人が生活し、いろいろな過ごし方があることに気づかせる。
<p>2 住みたいなるまちについて考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">あなたが「住みたいまち」とは、どんなまちですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園がいっぱいあるまち。 ・みんなが安心して暮らせるまち。 	

4 参考

- 本資料に描き込まれている要素
 - ・ ダンスをする人たち…障害のある人がダンスに参加して楽しんでいる。
 - ・ 様々な国にルーツをもつ子どもたち…国籍やルーツを越えて、ともに学び生活している。
 - ・ ソーラーハウス、ソーラーカー、風力発電設備、クリーンセンターの余熱を利用した温水プール等…環境に配慮した技術を開発し活用している。
 - ・ 駅の改札口とスロープ…車いすでも利用しやすい設備を整えている。
 - ・ 「駅」の多言語表示…日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語で表示している。
 - ・ お年寄りと話をする子ども…高齢者と子どもが楽しくふれあっている。
 - ・ 様々な民族の踊りを楽しむ人たち…多様な民族の文化を大切にしている。
 - ・ 目の不自由な人と盲導犬…障害のある人が安心して公共交通機関を利用している。
 - ・ 情報機器を利用する人、テレビ電話で会話している人…情報通信技術を生活の向上のために役立てている。
 - ・ 兵庫県の鳥「コウノトリ」（特別天然記念物）…貴重な自然を保護している。
 - ・ バードウォッチングをしている人たち、虫に親しむ人たち、潮干狩りをする人たち、ヨットや釣りなどを楽しむ人たち…身近な自然とふれあっている。
 - ・ 車いすレースを楽しむ人たち…障害のある人がスポーツを楽しんでいる。
 - ・ 巣箱を設置する人、川で生き物や水質を調べている人たち…自然に親しみ、大切にしている。
 - ・ 川辺の美化活動をしている人、木を植えている人…身近な環境の保全に取り組んでいる。

委 員 名 簿

(五十音順)

1 人権教育資料検討委員会

	五百住 満	関西学院大学 教授
	稲岡 健	神戸市教育委員会人権教育課 首席指導主事
	岡崎まゆみ	県立こどもの館 館長
委 員 長	桂 正孝	宝塚大学 教授
	新保真紀子	神戸親和女子大学 教授
	竹内 弘明	県教育委員会事務局 教育次長
	田中 伸明	神戸新聞社編集局 社会部デスク
	藤原 信子	兵庫県人権擁護委員連合会 副会長
副委員長	宮井 和子	西宮市立甲子園浜小学校 校長

2 人権教育資料作成委員会 (小学校中学年部会)

	足立 馨	三田市立高平小学校 教諭
	金川 香雪	姫路市立東小学校 教諭
部 会 長	日下 芳宏	淡路市立郡家小学校 主幹教諭
	歳内 利裕	県教育委員会事務局義務教育課 指導主事
	佐野 正信	尼崎市教育委員会学校教育課 指導主事
	田渕 哲	姫路市教育委員会人権教育課 指導主事
	富本 水子	神戸市立長田小学校 教諭
	松浦明日香	篠山市立城南小学校 教諭
	山下 徳子	芦屋市立潮見小学校 主幹教諭
	善村 龍昭	三木市立みなぎ台小学校 教諭
挿絵委員	秋山 道広	芦屋市立宮川小学校 教諭
	郷良佳代子	神戸市立妙法寺小学校 教諭
	内藤久身子	宝塚市立美座小学校 教諭
	中村 信介	神戸市立塩屋小学校 教諭
	橋本 忠和	姫路市立手柄小学校 主幹教諭
	古橋 衛	豊岡市立三江小学校 教諭

※ 委員の所属・職は平成 25 (2013) 年 3 月現在

小学校中学年用教育資料

『ほほえみ』 活用の手引き

平成 25 (2013) 年 3 月発行

発行 兵庫県教育委員会
神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

